

2025年度調査では、日本、豪州、米国、欧州の主要な水素関連プロジェクトを 下記の前提のもと調査・整理を実施した

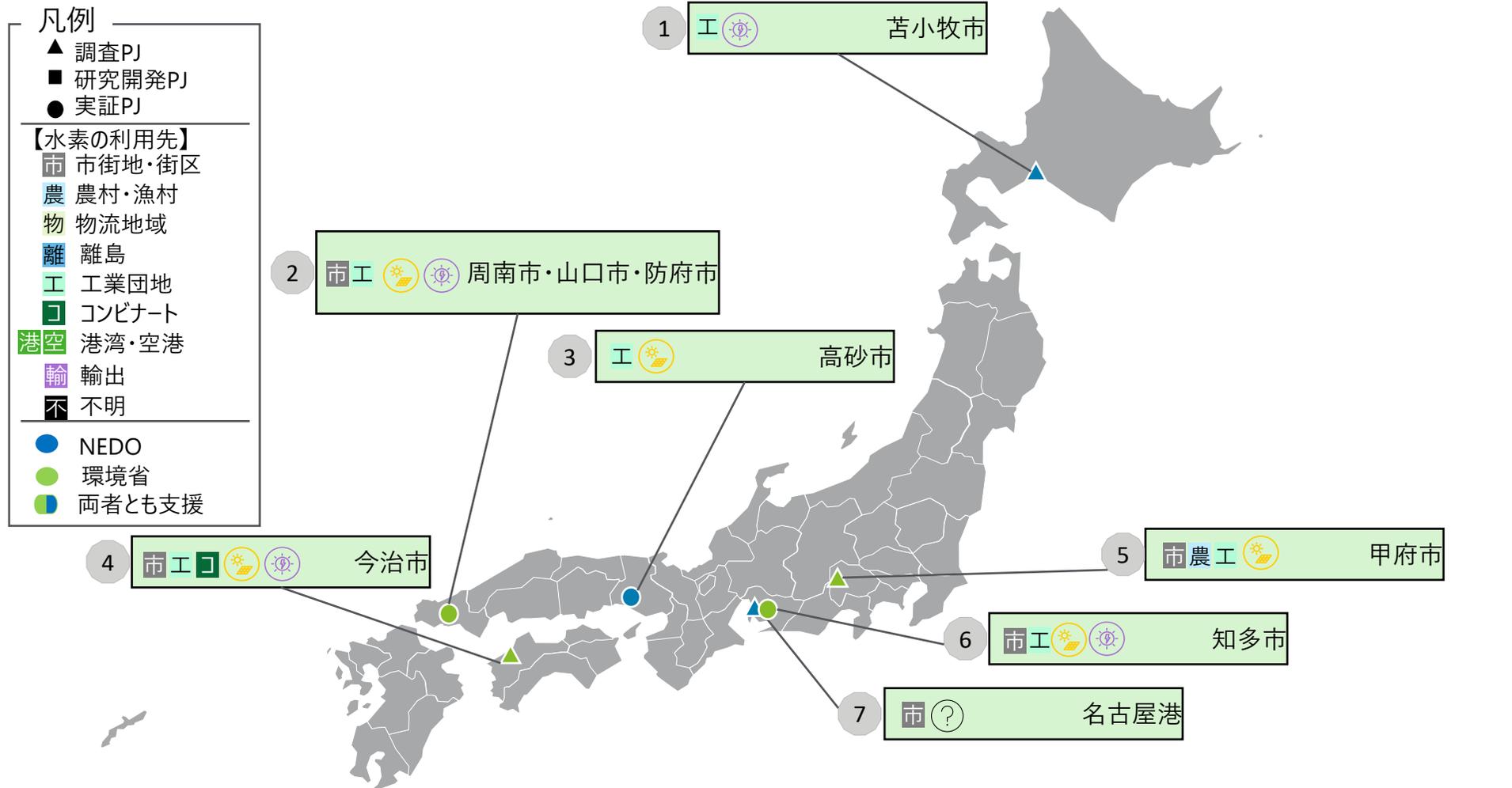
プロジェクト動向調査の前提条件

調査地域	前提条件	参照先
日本	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水素サプライチェーンとして「製造」「輸送」「利用」を満たすプロジェクトまたは具体的な地域においてサプライチェーンの将来像が明確に描かれているプロジェクトを対象 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本においては、実証プロジェクトが大半を占めるため、<u>調査・実証プロジェクトも調査対象に含む</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境省 支援プロジェクト ■ NEDO 支援プロジェクト ■ 各種プロジェクトに関するプレスリリース <p>※ いずれも2025年12月時点</p>
豪州	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>FID済の水素製造プロジェクトを対象</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ステータスがFS以前のプロジェクトは調査対象外 ■ <u>対象期間は2023年以降より稼働開始（もしくは開始予定）のプロジェクトを対象</u> 	
米国	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>再エネ由来（太陽光/風力/水力/その他再エネ）の水素製造プロジェクトに限定</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 水素派生物（e-Fuel/e-SAF/グリーンアンモニアなど）を製造するプロジェクトも対象 ➢ 天然ガスを用いた水蒸気改質やCCSを活用したブルー水素製造プロジェクトは対象外 ➢ 電源が系統（Grid）のみや不明（Other/Unknown）についても対象外 	<ul style="list-style-type: none"> ■ IEA <ul style="list-style-type: none"> ➢ IEA Hydrogen Production Projects Database（2025年12月時点） ■ 各種プロジェクトに関するプレスリリース <p>※ いずれも2025年12月時点</p>
欧州*	<ul style="list-style-type: none"> ※ ただし系統 + 再エネについては調査対象 	

*：欧州については、Clean Hydrogen Monitor 2025の資料より、大規模プロジェクト数が多い上位10カ国を調査対象とする

国内で最新の水素支援プロジェクトを調査した結果、 7件のプロジェクトが立ち上がっていることを確認した

日本全国における新規支援プロジェクトの分布



出典：NEDO/ 環境省

2025年度調査における NEDO及び環境省支援の新規プロジェクトは下記の通り

全国の新規支援プロジェクトの詳細 (1/2)

凡例：新規PJ

	プロジェクト名	主な事業者	採択	製造方法	概要	時期
1	北海道におけるアルミドロスのアルカリ処理による水素製造及び副生物活用モデル調査	鈴木商会・徳島大学	NEDO	副生水素	アルミドロスのアルカリ処理時に発生する副生水素をオンサイトで供給する事業を構築し、水素製造・供給コストの大幅な低減の可能性、供給先の水素需要家を調査	2025-
2	副生・再エネ水素による低コスト集中型(配管活用)/分散型サプライチェーン実証	山口県産業技術センター	環境省	再エネ電力(太陽光等)・副生水素	苛性ソーダ工場の副生水素を水素配管により商業施設へ輸送し冷温水機で利用することや、製造した水素をガスボンベ配送網で輸送しボイラー等で利用することなどによる、コスト競争力を図る水素供給サプライチェーン構築に向けた実証	2025-2029
3	熱エネルギー消費が主体の工場の脱炭素化に向けた燃烧式工業炉での水素利活用の実証	神戸製鋼所	NEDO	再エネ電力	2022年度までのNEDO実証事業範囲を踏まえた、ボイラーでの水素利活用実証	2023-2026
4	愛媛県今治市における地域産業と観光業による水素サプライチェーン構築及び付加価値創出に関する調査	日本環境技研	環境省	廃棄物発電・再エネ電力(太陽光等)	今治市クリーンセンターの未利用エネルギー(廃熱・余剰電力)を活用した水素供給拠点、既存インフラを活用した水素供給コストの低減可能性、地域産業・観光業・公共部門による水素需要創出可能性を調査	2025-2025

2025年度調査における NEDO及び環境省支援の新規プロジェクトは下記の通り

全国の新規支援プロジェクトの詳細 (2/2)

凡例：新規PJ

	プロジェクト名	主な事業者	採択	製造方法	概要	時期
5	内陸地域におけるグリーン水素の普及に向けた需要創出及び輸送方法の効率化に係る調査	FCyFINE PLUS	環境省	再エネ電力 (太陽光等)	再エネでの水素の製造、需要に合わせた貯蔵、既存インフラでの輸送や、観光やエンターテインメント分野、ジュエリー等の地場産業、農業、陸上養殖等の新たな分野での利用に関する事業の可能性についての調査	2025-2025
6	愛知県知多市における低炭素水素モデルタウン実証事業	愛知県庁	環境省	再エネ電力 (太陽光) ・副生水素	愛知県の持つ水素ステーションにおける低炭素水素製造・低コスト手法を検討、街利用向けに既存LPG配送網等を活用して効率的に配送するための検証、業務・家庭・その他街利用にける最適な水素のユースケースを検証	2025-2029
7	名古屋港および周辺地域における、商用化を見据えた水素供給インフラの設計・検証	豊田通商・大陽日酸・東邦ガス	NEDO	不明	移動式差圧充填車および差圧充填ステーションによる圧縮機レス・低コスト水素供給設備の実現性を検証	2025-2025

【プロジェクトマップ】 北海道地域における注目動向は以下の通り

北海道における支援プロジェクトの分布

凡例

- ▲ 調査PJ
- 研究開発PJ
- 実証PJ

【水素の利用先】

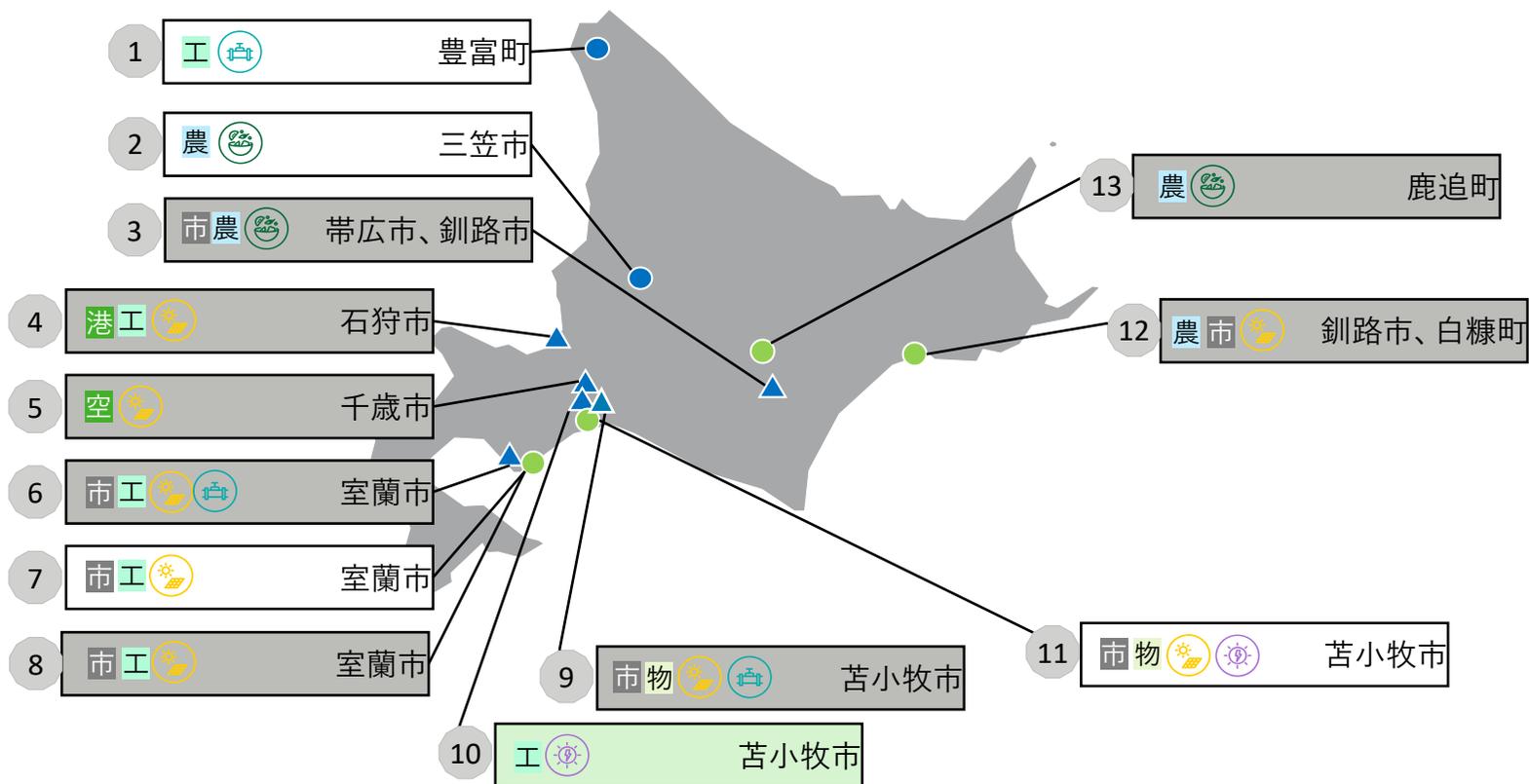
- 市 市街地・街区
- 農 農村・漁村
- 物 物流地域
- 離 離島
- 工 工業団地
- コ コンビナート
- 港空 港湾・空港
- 輸 輸出
- 不 不明

● NEDO
● 環境省
● 両者とも支援

【水素の製造方法】

【凡例】再エネ電力 バイオマス 化石燃料/CCUS 原子力 その他（副生水素、輸入水素等） 不明

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ



北海道における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
1	豊富町未利用天然ガスを活用した地域CO2フリー水素サプライチェーンの構築 詳細後述	エア・ウォーター 戸田工業	メタン	未利用温泉付随天然ガスを活用し、DMR法により、化石由来の天然ガスから水素を作り出し、近郊企業等へ提供することを主眼とした地域CO2フリー水素SCを構築・実証	2023-2025
2	三笠市H-UCGによるブルー水素サプライチェーン構築実証事業	大日本ダイヤ コンサルタント	バイオマス	液体アンモニア工場で水蒸気メタン改質を通じて生成される水素の一部をPV由来水素に置き換える事業。 10MWの水電解装置を建設・稼働	2023-2025
3	道東地域における家畜ふん尿由来水素利活用トータルシステムに関する調査	ドーコン	バイオマス	道東地域（根釧圏、十勝圏）をモデル地域とし、家畜ふん尿由来水素サプライチェーンの事業可能性について調査	2021-2022
4	石狩湾新港洋上風力の余剰電力を活用した水素サプライチェーンに関する調査	グリーンパワー インベストメント・ 北海道電力	再エネ電力 (洋上風力)	余剰電力から水素を製造する「大規模洋上風力」×「大規模蓄電池」×「水電解装置」の地産、並びに周辺地域での地消について技術的・経済的・制度的課題を調査	2021-2022
5	新千歳空港を中心とした地域における水素利活用モデル構築に関する調査	三菱商事・三 菱総合研究 所・北海道電 力ネットワーク	再エネ電力	新千歳空港構内を中心に、業務用車両等のモビリティ需要・旅客ターミナルビル等の熱需要に水素を供給する利活用モデルの構築可能性を調査	2022-2022
6	水素とCCUを活用した「鉄の街」でのカーボンニュートラルな街づくりに関する調査	日本製鋼所・ 室蘭市・デロ イト・マツコ ンサルティ ング	再エネ電力 (洋上風力) CCUS	室蘭市から苫小牧・千歳・札幌を結ぶ、Jカーブ経済圏における、脱炭素に対する面的な施策として、水素を基盤としたエネルギーシステムの構築、又、その一部としてのメタネーション実施を検討	2022-2022

北海道における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
7	既存のガス配送網を活用した小規模需要家向け低圧水素配送モデル構築・実証事業	室蘭ガス	再エネ電力 (風力)	① 水電解装置の稼働率の向上 ② 既存配送網の利用による配送費の低減 ③ 水素利用機器及び水素需要家の多様化 ④ 副生酸素利用による水素コスト減の実証	2022-2025
8	建物及び街区における水素利用普及を目指した低圧水素配送システム実証事業	大成建設・日本製鋼所	再エネ電力 (風力)	水素吸蔵合金タンクと水素配送車を用いることで、低圧のまま貯蔵・輸送を行い、定置型燃料電池を稼働させて、電力と熱を需要側施設へ供給する実証	2018-2021
9	北海道大規模グリーン水素サプライチェーン構築調査事業	ENEOS・北海道電力	再エネ電力 (太陽光・風力)・天然ガス	国内最大となる年間約1万トン規模のグリーン水素を製造する水電解装置(100MW級)を導入した場合における国産グリーン水素SCの構築可能性を調査	2022-2023
10	北海道におけるアルミドロスのアルカリ処理による水素製造及び副生物活用モデル調査	鈴木商会・徳島大学	副生水素	アルミドロスのアルカリ処理時に発生する副生水素をオンサイトで供給する事業を構築し、水素製造・供給コストの大幅な低減の可能性、供給先の水素需要家を調査	2025-
11	北海道を水素アイランドへ、電力系統に依存しない大規模再エネ水素サプライチェーン構築・実証事業	スパークスグリーンエナジー&テクノロジー・苫小牧市	廃棄物発電・再エネ電力 (太陽光)	廃棄物発電とその敷地内の太陽光発電の電力を組み合わせ、安定的に年間最大100万Nm ³ の再エネ水素を製造・供給するシステムを構築する実証	2023-2025
12	小水力由来の再エネ水素導入拡大と北海道の地域特性に適した水素活用モデルの構築実証	東芝エネルギーシステムズ	再エネ電力 (水力)	庶路ダムの小水力発電により製造した再エネ水素を、地域内の複数の施設に設置した定置型燃料電池で利用するとともに、燃料電池自動車へ供給する実証	2015-2020
13	家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業	エア・ウォーター・鹿島建設	バイオマス	家畜ふん尿から水素を製造し、燃料電池による電気・熱供給と燃料電池自動車・燃料電池フォークリフト等へ利用するSCを実証	2015-2021

【豊富町未利用天然ガスを活用した地域CO2フリー水素サプライチェーンの構築】 未利用資源の温泉付随天然ガスから水素とカーボンナノチューブを生産し、 地産地消に向けた技術開発を行っている

プロジェクト詳細

PJ名称	豊富町未利用天然ガスを活用した地域CO2フリー水素サプライチェーンの構築	地域	北海道天塩郡豊富町
事業者	エア・ウォーター、戸田工業	期間	2023年～2025年

概要

〈製造〉

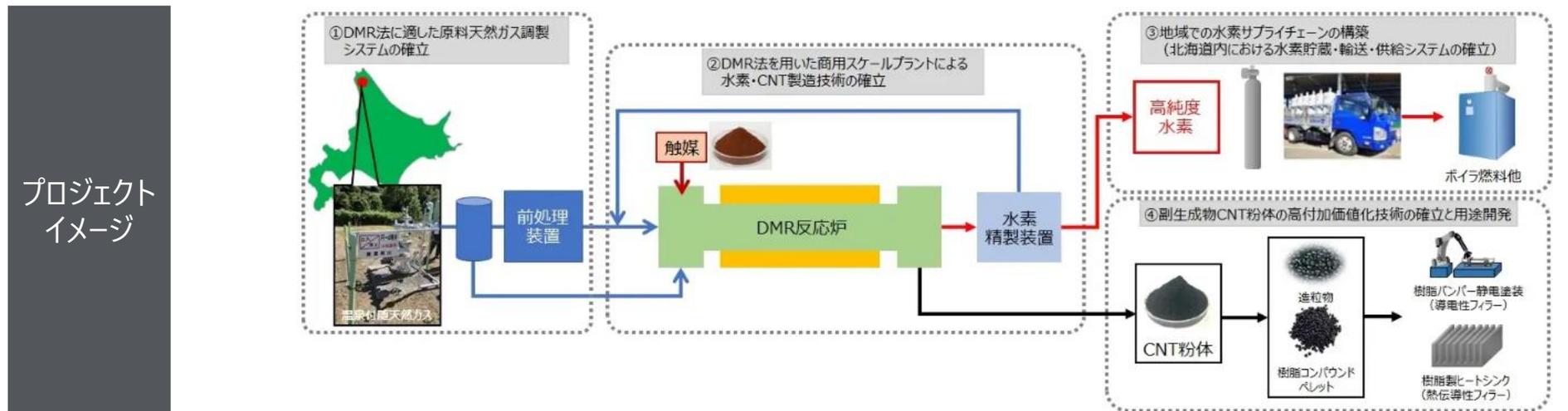
- メタンの熱分解により水素を生成する**DMR法**（メタン直接改質）により、豊富町の温泉付随天然ガスから**CO2フリー水素（ターコイズ水素）**と**カーボンナノチューブ（CNT）**を併産
 - 水素製造の国内初となる商用スケール機を豊富町に設置し、地産地消型産業創出モデルを実証
 - CNTを高付加価値化することで、水素製造コストを大幅に低減（目標製造コスト：30円/Nm3）

〈輸送〉

- カードル輸送

〈利用〉

- 水素は近隣の**食品工場**や、**地域レジリエンス用途**として**自治体へ供給**し、**地域脱炭素化**を推進



出典：エア・ウォーター、NEDO「水素社会構築技術開発事業」において「北海道豊富町未利用天然ガスを活用した地域CO2フリー水素サプライチェーンの構築」が採択 | エア・ウォーター株式会社のプレスリリース（2023年9月6日参照）

【プロジェクトマップ】 東北地域および関東地域の注目動向は以下のとおり

【水素の製造方法】

【凡例】再エネ電力 バイオマス 化石燃料/CCUS 原子力 その他（副生水素、輸入水素等） 不明

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

東北および関東における支援プロジェクトの分布

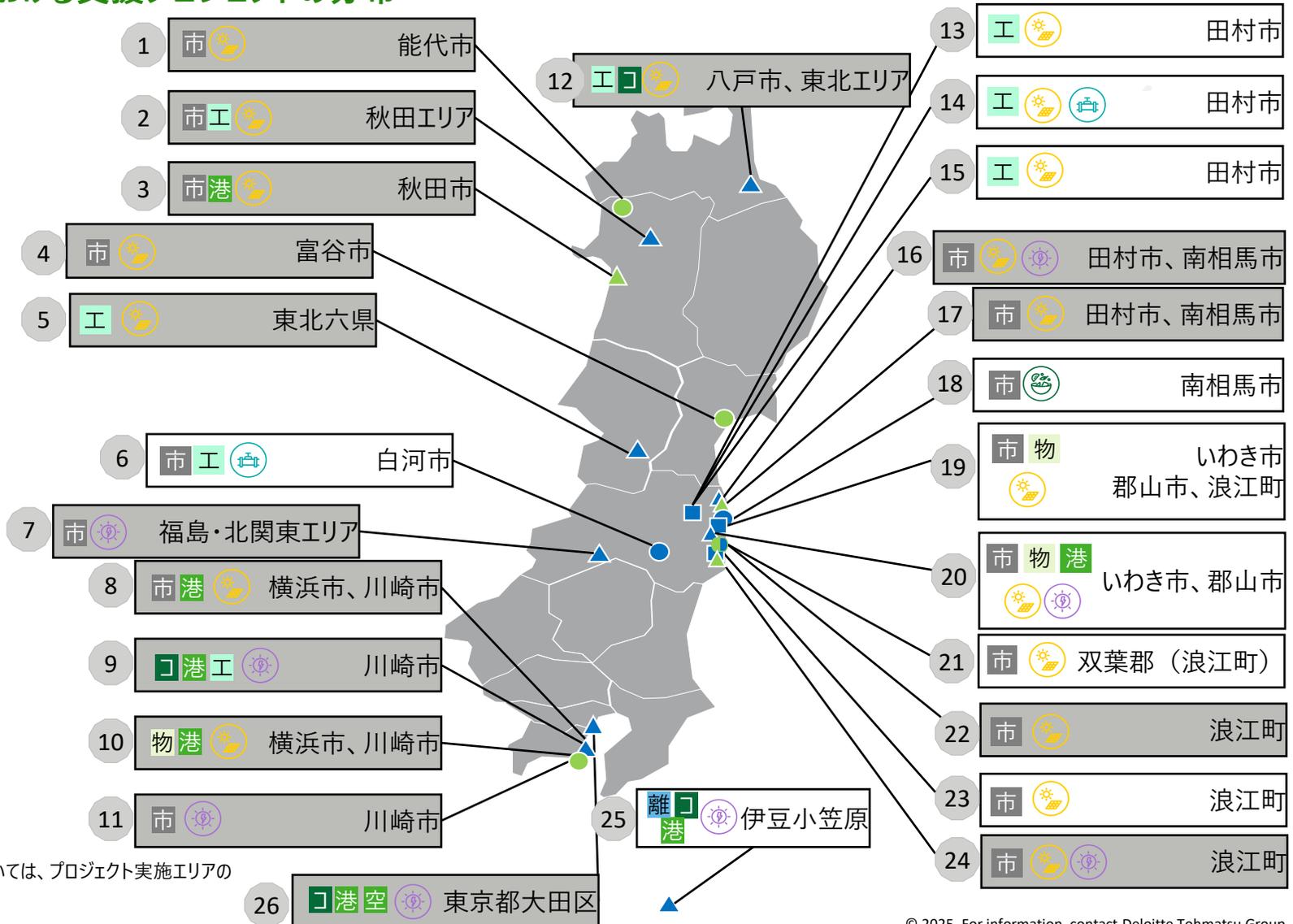
凡例

- ▲ 調査PJ
- 研究開発PJ
- 実証PJ

【水素の利用先】

- 市 市街地・街区
- 農 農村・漁村
- 物 物流地域
- 離 離島
- 工 工業団地
- コ コンビナート
- 港空 港湾・空港
- 輸 輸出
- 不 不明

● NEDO
● 環境省
● 両者とも支援



出典：NEDO/ 環境省

※エリア単位でのプロジェクトについては、プロジェクト実施エリアの中心地を指す

東北および関東における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
1	再エネ電解水素の製造及び水素混合ガスの供給利用実証事業	NTTデータ研究所・大森建設	再エネ電力（風力）	秋田県産ガスに模した高熱量の模擬ガスと混合することで、水素混合都市ガスを製造し、同混合ガスをガス配管により隣接地に設置した利用場所へ供給する実証	2018-2021
2	秋田県における地産地消型水素製造・利活用ポテンシャルに関する調査	秋田県産業技術センター・NTTデータ研究所	再エネ電力（水力・陸上風力）	秋田県全域を対象とし、系統制約等の影響で再エネによる発電を導入できていない地域において、再エネ電力の水素製造・利活用を行うための水素製造及び需要ポテンシャルの調査	2019-2022
3	風力発電由来の水素製造及び水素混焼エンジンを活用した秋田港水素化構想	大日本ダイヤコンサル	再エネ電力（風力）	余剰が発生しており、今後の大量導入を見据えた余剰電力の活用先の調査	2022-2022
4	富谷市における既存物流網と純水素燃料電池を活用した低炭素水素サプライチェーン実証	日立製作所・丸紅・富谷市・みやぎ生活協同組合	再エネ電力（太陽光）	民生用水素利用実現のため、水素混焼発電機を新設し、水素製造に必要な補器類へ電力供給を開始	2017-2021
5	東北地方におけるカーボンニュートラルに向けた水素製造・利活用ポテンシャルに関する調査	東芝エネルギーシステムズ	再エネ電力（風力）	60MWの電解装置を通じてオンサイトで水素を生産し、鉄鉱石鉱山で保有している既存のディーゼル客車を水素燃料電池客車10台に置き換える事業	2023-2024
6	水素エネルギーの地産地消と、工業的熱利用による温室効果ガスの総合的削減効果の実証研究	住友ゴム工業	天然ガス	①ゴム製造に必要な熱エネルギーの脱炭素化技術の確立 ②福島新エネ社会構想の一つである水素エネルギーの地産地消モデルの構築	2023-2025
7	鉄道を中心とした水素エネルギーを活用する持続可能な地域交通モデルの社会実装	東日本旅客鉄・ENEOS	副生水素	非電化鉄道路線の走る地方都市（福島県、北関東）において、鉄道をはじめとした水素エネルギーを活用する持続可能な地域交通を実現するモデルの構築・導入・維持に向けた実現可能性や課題の調査	2023-2024

東北および関東における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
8	横浜港におけるカーボンニュートラルポート形成に向けた水素利活用システム検討調査	横浜川崎国際港湾・横浜市・横浜港埠頭	再エネ電力 (洋上風力)	横浜・川崎臨海部における水素製造ポテンシャルと水素利活用ポテンシャルの調査	2021-2022
9	東京湾岸エリアにおけるCO2フリー水素供給モデルに関する調査	ENEOS・ENEOS総研・川崎市	輸入	臨海部に所在する製油所等の、海外CO2フリー水素受入基地としての可能性、需要家への水素パイプラインによる水素供給インフラ構築の実現可能性を調査	2021-2022
10	京浜臨海部での燃料電池フォークリフト導入とクリーン水素活用モデル構築実証	トヨタ自動車	再エネ電力 (風力)	①風力発電により水素を製造するシステム ②最適な供給を行うための貯蔵と輸送の仕組み ③燃料電池フォークリフトの導入利用 ④水素SCの事業可能性調査	2015-2020
11	使用済プラスチック由来低炭素水素を活用した地域循環型水素地産地消モデル実証事業	昭和電工・東芝・大和ハウス・東急ホテル	廃プラスチック	使用済プラスチックを原料とした水素を製造し、パイプライン輸送により、業務施設や研究施設の定置型燃料電池や燃料電池自動車で利用するモデルを実証	2015-2021
12	むつ小川原地区と東北エリアにおける水素製造・利活用ポテンシャルに関する調査	ENEOS・デロイトトーマツコンサルティング・新むつ小川原	再エネ電力 (洋上風力)	むつ小川原の再生可能エネルギーを利用した、むつ小川原および東北地方におけるCO2フリー水素の製造・貯蔵・利用モデルを構築。メチルシクロヘキサン(MCH)を水素エネルギーのキャリアとすることで、再生可能エネルギーの備蓄性なども検討	2021-2022
13	分散電源等を用いた福島地域における工場への再生可能エネルギー導入率向上技術の開発	デンソー福島	再エネ電力 (太陽光)	再エネ機器の工場需要に見合った導入量と発電コスト調査や、工場のエネルギー需給予測に即して制御するシステム、混合燃料を用いたSOFCの開発事業	2023-2025
14	水素のオンサイト製造と燃焼利用による工場脱炭素化技術の開発と地域展開原単位の提案	デンソー・トヨタ自動車	再エネ電力、天然ガス	①自動車産業における多種多様な熱利用工程のCO2排出対策を、工場稼働に影響を及ぼさず、かつ経済合理性のある手段で解決する②その過程で得られる知見や技術を他企業・他地域に展開	2021-2025

東北および関東における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
15	福島県内におけるグリーンガラスの製造を核とした分散水素供給・利用システム技術開発	巴商会・ ヒメジ理化・ 山梨県企業局	再エネ電力	山梨実証コンソーシアムの開発技術を応用し、地域経済県内におけるグリーン水素の生産拠点を創出し、配給網を構築する事業	2022- 2025
16	福島県浜通り地方における地産地消型水素製造・利活用ポテンシャル調査	野村総合研究所	再エネ電力・ 副生水素	既設インフラ等を最大限活用して実装し、輸入水素の他に副生水素等を活用し地域の防災拠点や産業団地への供給に向けた調査	2019- 2022
17	福島県浜通り地域における安価な水素供給モデルの実現可能性等に係る調査	鈴木商館、 トヨタ自動車、 豊田自動織機、 日本環境技研	再エネ電力	産業車両や建設機械等、地域でのニーズが高く、BEV化が困難なモビリティのFC化及びその導入ポテンシャルや、安価な水素供給モデルの実現可能性を調査	2021- 2022
18	地域コミュニティのグリーン水素を利活用した水素混合LPガス事業	岩谷産業・ 相馬ガスホールディングス	バイオマス	LPガスに水素を混合し、安全に供給・使用可能な割合を検証する水素混合LPガスの実証事業。今後の水素混合LPガス事業の拡大を目指す	2023- 2025
19	マルチパーパスFCEVの給電技術を活用した新たな水素利活用モデルの構築	トヨタ自動車・ 郡山観光交通	再エネ電力 (太陽光)	商用バンやマイクロバスをFCEV化することにより、クリーンで静か、かつ豊富な電力を活用した、新たな水素利活用のモデルを構築する事業。FH2Rに設置の太陽光発電で水素を製造する	2022- 2025
20	小名浜港を中心とした地方都市の物流・人流のFC化モデル構築に向けた調査	豊田通商・いわき バッテリーバレー推進機構・日本環境技研	再エネ電力・ 副生水素	港を起点とした物流、都市の人流、副生水素や将来の輸入水素/アンモニア等のポテンシャルを活かして、地方都市における経済成立性の高い水素需給モデルの検討等成立要件の調査	2023- 2025
21	最適運用管理システムを活用した低コスト再エネ水素サプライチェーン構築・実証	大林組	再エネ電力 (太陽光)	「福島水素エネルギー研究フィールド」で製造された水素のSCの最適化及びBCP対策として、水素需給量・搬送状況を考慮した最適搬送管理システムを構築する実証	2020- 2025

東北および関東における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
22	水素民生・産業利用サプライチェーン構築及び需給調整実証事業	日立製作所	再生電力	民生向けおよび産業向けへの水素利活用モデルを構築する実証。水素エネルギー利用を中心とした工場の誘致などによる産業活性化、地域全体の活性化を進める	2022-2024
23	再生電力利用水素システムの事業モデル構築と大規模実証に係る技術開発 詳細後述	東芝エネルギーシステムズ・東北電力・岩谷産業	再生電力（太陽光・風力）	基本検討で定義したシステム仕様に基づき、水素エネルギー運用システム、ACシステム、水素需給管理システムの詳細設計・実装・試運転を実施する事業	2016-2026
24	浪江町における水素サプライチェーン構築に係るFS調査	丸紅、みやぎ生活協同組合	再生電力（太陽光等）・副生水素	複数の供給源から純度の異なる水素を収集し、水素供給拠点を經由して需要家へ提供するための水素SCシステムモデルの検討及び事業性評価を実施	2020-2022
25	伊豆小笠原・沖縄海域の海底熱水を利用した水素製造・船用燃料への利活用ポテンシャル調査	商船三井	海底熱水	伊豆小笠原・沖縄海域等にある海底熱水域熱水を利用し、海底バイナリー発電等による電力で水素を製造し、水素燃料、アンモニア等として船用燃料をはじめ幅広く利活用するモデルの実現可能性の調査	2024-2025
26	東京国際空港及びその周辺地域におけるCO2フリー水素利用モデル調査	日本空港ビルデング	輸入	川崎臨海部におけるCO2フリー水素受入から、羽田空港や空港周辺地域での脱炭素化が困難な業務・産業分野を中心とした水素利活用までの水素SC構築におけるシステムモデルの実現可能性調査	2022-2023



【水素民生・産業利用サプライチェーン構築及び需給調整実証事業】 日立製作所は浪江町において、家庭への水素配送、及び水素由来電力を 既存配電線により送電することで民生及び産業の水素モデルを実証している

プロジェクト詳細

PJ名称	水素民生・産業利用サプライチェーン構築及び 需給調整実証事業*
公募 募集者	経済産業省
関連 事業者	浪江町 日立製作所（公募に採択された浪江町から受託）

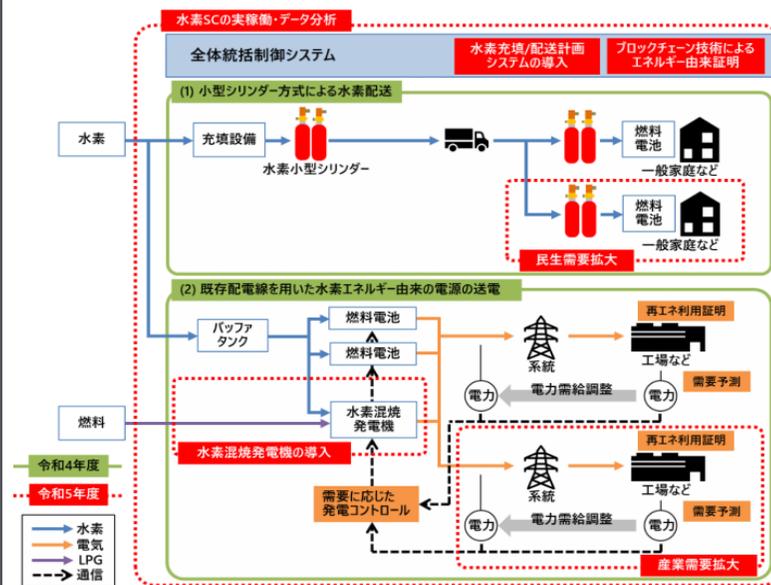
背景

浪江町では、本事業を通じて、**民生向けおよび産業向けへの水素利活用モデルを構築・実証**し、水素エネルギー利用を中心とした工場の誘致などによる産業活性化、ならびに町民への理解促進を図り、地域全体の活性化を進めることを目指す。2022年6月に採択され、2023年3月まで本実証システム全体の設計・構築・試運転が実施された。

実証 内容

- ①小型シリンダー方式による水素配送(民生向け)**
水素小型シリンダーに水素を充填し、浪江町内にある一般家庭にLPガス事業者がトラックで配送する。配送された小型シリンダーを純水素型燃料電池(パナソニック製)に接続し、電気に変換することで、一般家庭における水素エネルギー由来の電力利活用を実現する。
- ②既存配電線を用いた水素エネルギー由来の電源の送電(産業向け)**
水素エネルギー由来の電力を、既存の配電線を用いた浪江町役場などへの送電を計画しており、浪江町役場などの消費電力量に応じた需給バランス制御を遠方から実施する。
- ③事業性評価**
上記の運用により収集した水素消費量や燃料電池発電量などのデータ分析を行い、「地域新エネルギー会社」の事業性評価として、事業が成立する条件やスキームを検討する。

イメージ



出所：日立製作所 (hitachi.co.jp)、ニュースリリース：2022年9月22日：日立 (hitachi.co.jp)（参照日：2023年11月9日）

*：浪江町が経済産業省から「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業」補助金公募に係る補助事業者として採択され、日立製作所に受託した事業

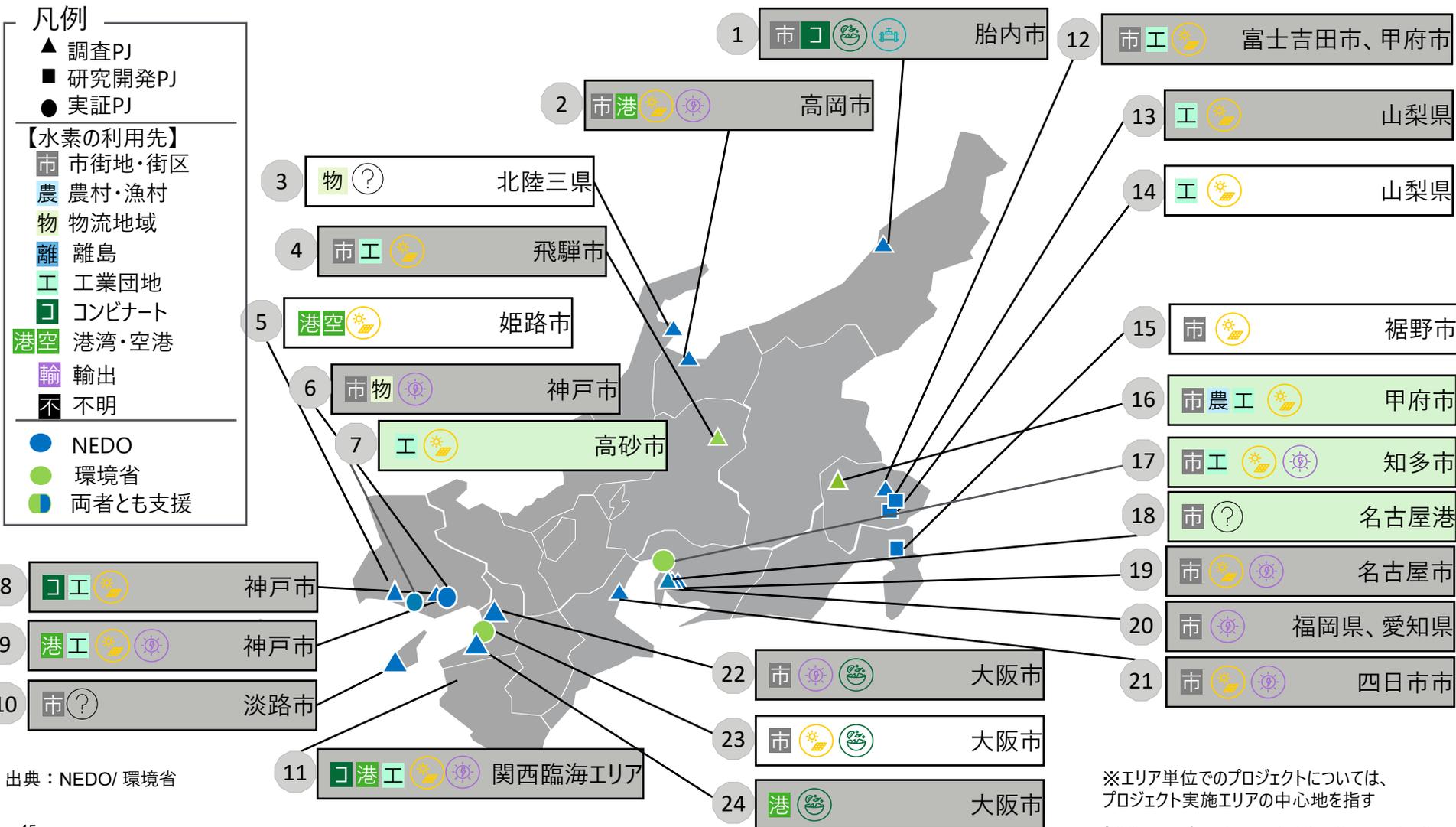
【プロジェクトマップ】 中部地域および近畿地域の注目動向は以下のとおり

中部および近畿における支援プロジェクトの分布

【水素の製造方法】

【凡例】再生電力 バイオマス 化石燃料/CCUS 原子力 その他（副生水素、輸入水素等） 不明

【凡例】新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ



出典：NEDO/環境省

※エリア単位でのプロジェクトについては、プロジェクト実施エリアの中心地を指す

中部および近畿における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
1	国産バイオマスからのCO2ネガティブ水素製造に係るBECCS一貫実証モデルに関する調査	電源開発・JX石油開発・みずほリサーチテック・シリーズ	バイオマス・CCUS	木質バイオマスをガス化後、水素抽出とCO2分離回収・貯留を組み合わせたCO2ネガティブ水素製造及び新潟県内での水素利活用を行う水素地産地消モデル（BECCS一貫実証モデル）の実現可能性を評価する調査	2022-2023
2	伏木富山港の脱炭素化に向けた水素利活用トータルシステム調査	日本NUS・北酸	再エネ電力（太陽光）副生水素	水素製造ポテンシャルと、産業集積地帯である伏木富山港周辺の水素利用先を調査	2021-2022
3	ISOタンクコンテナを活用した液化水素ローカルサプライチェーンモデル構築事業	北酸	不明	①北陸三県の水素需要量調査②水素供給に関する運搬経路の調査③液化水素ISOタンクコンテナの選定・技術開発方針策定④水素SC実証計画策定	2024-2025
4	飛騨市の既設水力発電を利用した低コスト水素供給事業FS調査	日本NUS	再エネ電力（水力）	水力発電設備を活用し水素を製造、産業や住宅・公共設備等の脱炭素燃料として利用する際の実現可能性について調査	2022-2022
5	姫路地区を起点としたグリーン水素の大規模輸送・利活用に向けた調査	関西電力・西日本旅客鉄道	再エネ電力	鉄道や通信用管路といった既存インフラを活用し、水素輸送を確立することで、水素需要創出と効率的なサプライチェーン構築に貢献することを目的とした調査事業	2022-2025
6	未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業	技術研究組合CO2フリー水素サプライチェーン推進機構（HySTRA）	褐炭	輸送タンクシステムの真空防熱性能を評価し、実際の運用条件下での技術的信頼性を検証	2015-2023

中部および近畿における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
7	熱エネルギー消費が主体の工場の脱炭素化に向けた燃焼式工業炉での水素利活用の実証	神戸製鋼所	再エネ電力	2022年度までのNEDO実証事業範囲を踏まえた、ボイラーでの水素利活用実証 ※ 8 の後続案件	2023-2026
8	熱によるエネルギー消費が主体の工場の脱炭素化に向けた水素利活用モデルに関する調査	神戸製鋼所・ 神鋼エンジニアリング&メンテナンス	再エネ電力 (太陽光)	主要なエネルギー消費設備である工業炉・ボイラーを含む設備におけるCO2フリー水素の利用を目指した調査	2021-2022
9	神戸港カーボンニュートラルポート形成に向けた水素利活用モデル調査	神戸市・阪神国際湾港・丸紅・岩谷産業	再エネ電力・ 副生水素・ 輸入	国内有数のコンテナターミナルを有する神戸港のカーボンニュートラルポート形成に向けた水素利活用モデルを調査	2021-2022
10	兵庫県淡路地域における系統蓄電池と組合せた水素製造および水素利活用に関する調査	関西電力・岩谷産業・兵庫県・コーナン商事	不明	電力系統に接続する蓄電池を水素製造にも活用した水素単価の低減の可能性調査と、兵庫県・淡路地域の特徴を踏まえた水素利活用について調査	2022-2022
11	関西圏の臨海エリアにおける水素供給モデルに関する調査	丸紅・岩谷産業・デロイトトーマツコンサルティング・日鉄パイプライン	輸入・ 再エネ電力 (太陽光) ・副生水素	水素受入基地の候補地比較を行うとともに、受入基地での揚荷・貯蔵、輸送手段（水素ガス高圧パイプライン、液化水素ローリー）の事業性を含めた調査	2021-2021
12	やまなし地産地消型グリーン水素製造・利活用トータルシステムに関する調査	山梨県企業局・東京電力エナジーパートナー・巴商会・山梨県	再エネ電力 (太陽光)	工場等の大規模P2Gシステムを基盤として、小規模な産業・業務部門の熱需要や原料利用など電化等による脱炭素化が困難な分野での活用に向けた調査	2021-2022
13	CO2フリーの水素社会構築を目指したP2Gシステム技術開発	山梨県企業局・東レ・東京電力HD・東光高岳	再エネ電力 (太陽光)	P2G（パワー・ツー・ガス）システムの試運転を開始し、高効率化・大容量化、国内外への普及を図るシステムを構築する技術開発・実証	2016-2022

中部および近畿における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
14	水素を熱源とした脱炭素エネルギーネットワークやまなしモデルの技術開発 詳細後述	山梨県企業局・東京電力エナジーパートナー・東レ・巴商会・UCC上島珈琲	再エネ電力	水電解装置を用いた分散型供給システムを実現するため、PEM型P2Gシステムの小規模パッケージ化の開発や、電化が困難な産業部門等の脱炭素化を指向し、水素利用のコーヒー製造技術開発を通じて食品加工分野の脱炭素化などの実証	2022-2026
15	裾野市CO2フリー水素ステーションを活用したパイプライン水素供給システムの開発 詳細後述	ENEOS	再エネ電力	水素の地産地消事業の一環として、モビリティ需要と民生需要を効率的に満たす供給システムの構築を行うことを目的とした水素供給モデルの実証事業	2023-2025
16	内陸地域におけるグリーン水素の普及に向けた需要創出及び輸送方法の効率化に係る調査	FCyFINE PLUS	再エネ電力(太陽光等)	再エネでの水素の製造、需要に合わせた貯蔵、既存インフラでの輸送や、観光やエンターテインメント分野、ジュエリー等の地場産業、農業、陸上養殖等の新たな分野での利用に関する事業の可能性についての調査	2025-2025
17	愛知県知多市における低炭素水素モデルタウン実証事業	愛知県	再エネ電力(太陽光)・副生水素	愛知県の持つ水素STにおける低炭素水素製造・低コスト手法を検討、街利用向けに既存LPG配送網等を活用して効率的に配送するための検証、業務・家庭・その他街利用にける最適な水素のユースケースを検証	2025-2029
18	名古屋港および周辺地域における、商用化を見据えた水素供給インフラの設計・検証	豊田通商・大陽日酸・東邦ガス	不明	移動式差圧充填車および差圧充填ステーションによる圧縮機レス・低コスト水素供給設備の実現性を検証	2025-2025

中部および近畿における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
19	名古屋南部工業地帯を中核とした水素利活用による脱炭素化と中部圏の産業発展、活性化ポテンシャルに係る調査	野村総合研究所	再エネ電力・副生水素・輸入	業務・産業分野等での水素利活用を複合的に組み合わせた統合的なエネルギーシステムモデルを目指し、名古屋南部工業地帯を中核としてそのポテンシャルの調査	2021-2022
20	都市部における廃プラスチックガス化リサイクルによる地域低炭素水素モデル構築に向けた調査	岩谷産業・豊田通商・日揮ホールディングス	廃プラスチック	廃プラスチックのガス化による水素製造と、地域での利活用モデルの可能性を検討	2021-2022
21	中部圏における海外輸入水素の受入・配送事業に関する実現可能性調査	住友商事・千代田化工建設・トヨタ自動車・日本総合研究所	輸入・再エネ電力	大型の受入と産業セクター・地域を横断した配送を前提とするSC構築および本受入配送事業の事業性確保における課題と対応を調査	2021-2022
22	夢洲を中心とした水素利活用地産地消モデルに関する調査	都市環境エネルギー協会・日本環境技研	バイオマス・副生水素	EXPO'25会場では次世代型エネルギーインフラの導入が求められており、地域資源を生かした水素製造・利活用モデルの具体像並びに実現可能性を調査	2021-2022
23	都市部における再エネ由来水素と生ごみ由来バイオガスを活用したメタネーションによる水素サプライチェーン構築・実証事業	大阪ガス	再エネ電力（太陽光・風力）・バイオマス	再エネ水素と生ごみより製造したバイオガスを用いてメタネーションを行い、従来の都市ガス消費機器で利用する実証	2022-2025
24	大阪市における都市型水素利活用モデルの検討	デロイトトーマツコンサルティング	汚水	下水汚泥由来水素の製造・輸送・利活用ポテンシャルや実装に向けた課題等の検討	2019-2022



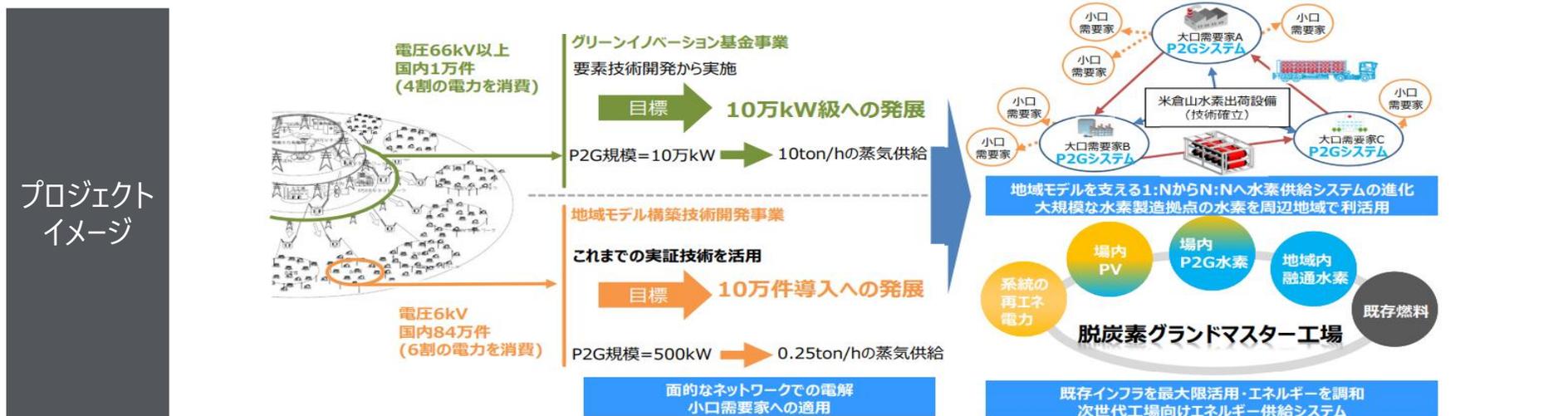
【水素を熱源とした脱炭素エネルギーネットワークやまなしモデルの技術開発】

山梨県が進めてきた既存の実証成果を活かし、小規模のP2Gシステムを開発することで電化が困難な産業部門等の脱炭素化を目指す

プロジェクト詳細

PJ名称	水素を熱源とした脱炭素エネルギーネットワーク やまなしモデルの技術開発	地域	山梨県
事業者	山梨県企業局、東京電力エナジーパートナー、 巴商会、UCC上島珈琲、東レ	期間	2022年～2026年

概要	<p>〈製造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 500kW級PEM型P2Gシステムの小規模パッケージ化を開発・実証 <p>〈輸送〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ GI基金による大規模な水素製造拠点の拡大を想定し、次世代のカードル・トレーラーを開発し、大容量輸送技術手段の確立 <p>〈利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 既存インフラを最大限活用するモデル工場を創出に向け、脱炭素グランドマスター工場のモデル化を提案・実証 ■ 電化が困難な産業部門等の脱炭素化を指向し、水素利用のコーヒー製造技術開発を通じて食品加工分野の脱炭素化を実証
----	---



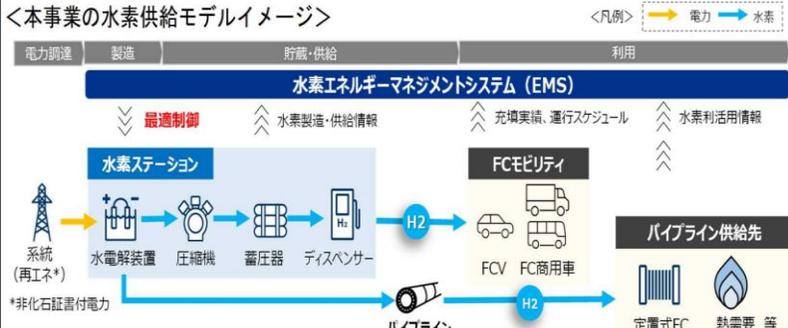
出典：東レ、水素を熱源とした脱炭素エネルギーネットワーク「やまなしモデル」技術開発事業の開始について | ニュース一覧 | TORAY（参照2023年9月6日）

NEDO, 100950481.pdf (nedo.go.jp)、（参照2023年9月6日）

【裾野市CO2フリー水素ステーションを活用したパイプライン水素供給システムの開発】

ENEOSは、水素ステーションを通じた民生の電力・熱需要に対応する水素供給モデルの実証を行う

プロジェクト詳細

公募名	水素社会構築技術開発事業/ 地域水素利活用技術開発
公募事業者	新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
採択事業者	ENEOS
地域	静岡県裾野市 Woven City*
事業期間	2023年～2025年度
目的	脱炭素社会を見据えた水素の地産地消事業の一環として、モビリティ需要と民生需要を効率的に満たす供給システムの構築を行うこと。
イメージ	<p><本事業の水素供給モデルイメージ></p>  <p>The diagram illustrates the hydrogen supply model. It starts with '電力調達' (Power Procurement) from '系統(再生*)' (Grid (Renewable*)) and '製造' (Manufacturing) at the '水素ステーション' (Hydrogen Station) using '水電解装置' (Water electrolysis equipment), '圧縮機' (Compressor), and '蓄圧器' (Storage tank). The '水素エネルギーマネジメントシステム (EMS)' (Hydrogen Energy Management System) oversees the process, including '最適制御' (Optimal control) and '水素製造・供給情報' (Hydrogen production and supply information). The '貯蔵・供給' (Storage and supply) stage involves 'FCモビリティ' (FC Mobility) and 'パイプライン供給先' (Pipeline supply destinations). The '利用' (Usage) stage includes 'パイプライン' (Pipeline) and 'パイプライン供給先' (Pipeline supply destinations) such as 'FCV', 'FC商用車' (FC Commercial vehicle), '定置式FC' (Stationary FC), and '熱需要等' (Heat requirements, etc.). A legend indicates that yellow arrows represent '電力' (Power) and blue arrows represent '水素' (Hydrogen).</p>

①水素ステーション、及びパイプライン実証設備の建設
 系統電力を用いて水素をオンサイトで製造するSTをENEOSが建設。非化石証書を調達することで実質CO2フリーとする予定である（水素製造に用いる系統電力に付与する非化石証書の調達先は現在検討中）。ステーションに関しては2025年に開所予定となっており、実証では水電解装置のみが稼働する。パイプラインはWoven Cityに向けて約500mを敷設予定である。

②水素供給実証
 Woven City域外のオンサイト水素ステーションからパイプラインを通じて、Woven City内に設置されたトヨタ製の燃料電池に水素供給を行う。街の電力と熱需要に対応する。水素供給量は現在協議中である。

③水素エネルギーマネジメントシステム（水素EMS）の開発
 ENEOSは水電解装置を併設した水素ステーションである「横浜旭水素ステーション」において、2021年から水素EMS開発に着手しており、Woven Cityにも水素EMSを導入予定。同社は多くの発電・蓄電設備や水素製造設備を保有しており、**社外技術の評価と予測システムの内製開発**を行うことで独自の高精度なエネルギーマネジメント技術の開発に取り組んでいる。

④裾野市水素パイプライン実証設備の安全性評価および安全対策の検討

事業内容

*：トヨタ自動車 が取り組んでいる最先端技術の実証を行う都市 出所：ENEOS、【ニュースリリース】「CO2フリー水素ステーションからパイプラインで街に水素を供給する実証事業が始動」＜NEDO事業採択＞(eneos.co.jp)、エネルギーマネジメント技術 | 低炭素技術研究 | ENEOS (eneos.co.jp)日経、充填所からパイプラインで水素供給、ENEOSが実証 - ニュース - メガソーラービジネス : 日経BP (nikkeibp.co.jp) (参照日：2023年12月9日)

【プロジェクトマップ】 中国・四国地域および九州・沖縄地域の注目動向は 以下のとおり

中国・四国および九州・沖縄における支援プロジェクトの分布

【水素の製造方法】

【凡例】再エネ電力 バイオマス 化石燃料/CCUS 原子力 その他（副生水素、輸入水素等） 不明

【凡例】新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

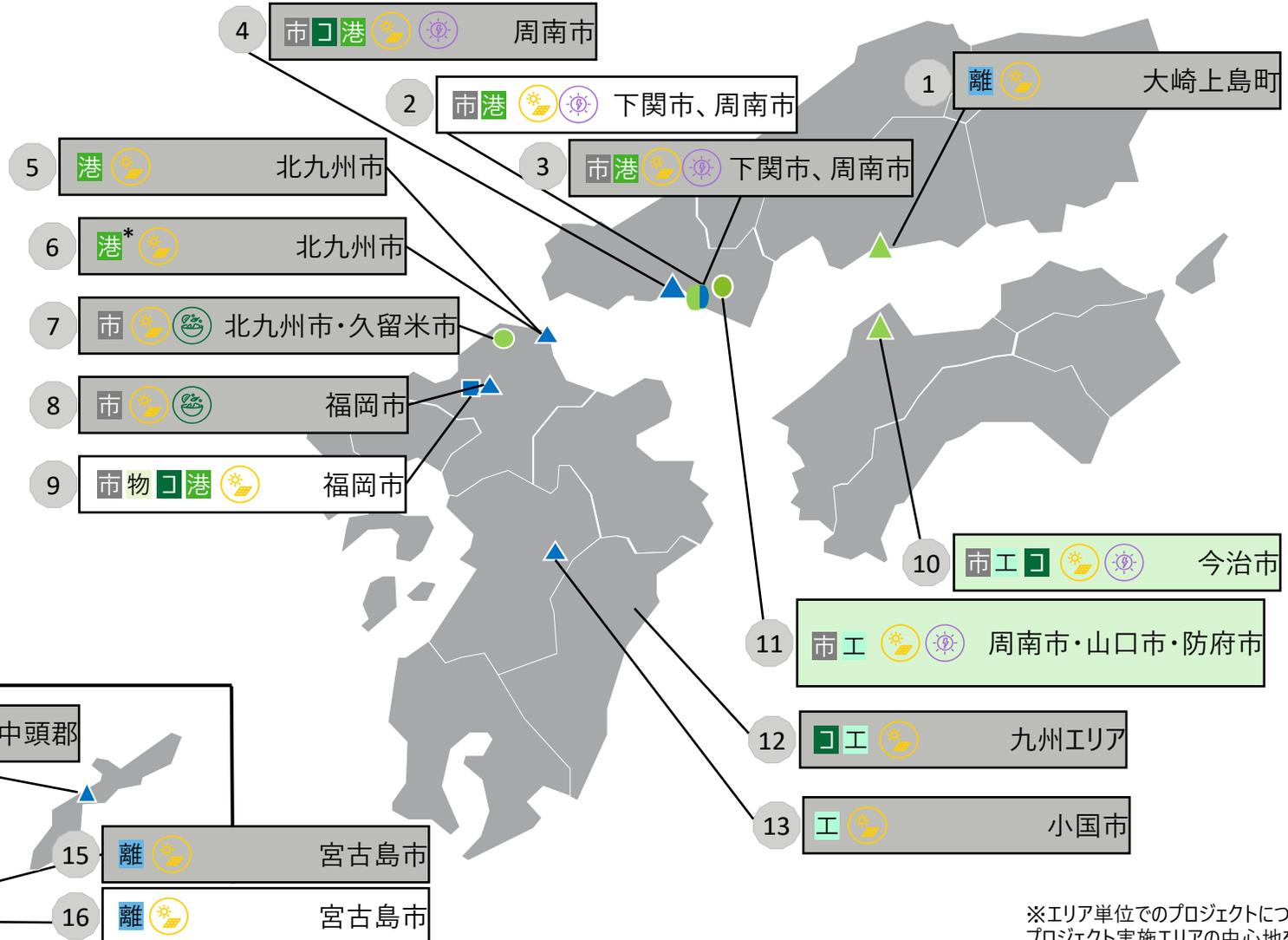
凡例

- ▲ 調査PJ
- 研究開発PJ
- 実証PJ

【水素の利用先】

- 市 市街地・街区
- 農 農村・漁村
- 物 物流地域
- 離 離島
- 工 工業団地
- コ コンビナート
- 港空 港湾・空港
- 輸 輸出
- 不 不明

- NEDO
- 環境省
- 両者とも支援



※エリア単位でのプロジェクトについては、プロジェクト実施エリアの中心地を指す

中国・四国および九州・沖縄における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
1	大崎上島町における地産地消の水素サプライチェーンモデル構築FS調査事業	NX商事	再エネ電力 (太陽光)	離島における水素の地産地消型モデルの構築と、グリーン水素を一次エネルギー源として島内で発生するCO2と合成した合成燃料としての活用可能性を調査	2022- 2022
2	副生水素と車両からのリユースを想定した定置用燃料電池電源のデータセンター向け実証	本田技研工業・ トクヤマ・ 三菱商事	再エネ電力 (太陽光)・ 副生水素	トクヤマの食塩電解事業の副生水素を活用し、コンテナ型データセンター向けに、本田技研工業が開発した車両からのリユースを想定した定置用燃料電池電源から電力供給を行う実証	2023- 2025
3	苛性ソーダ由来の未利用な高純度副生水素を活用した地産地消・地域関連携モデルの構築	トクヤマ	再エネ電力 (太陽光)・ 副生水素	苛性ソーダ工場から副生水素を回収し、地産地消の水素需給モデルに加え、まとまった量の水素を液化して広域にも供給するモデルを構築する実証	2015- 2021
4	副生水素等による大規模水素供給・利活用モデル（周南モデル）の構築と定量化に関する調査	トクヤマ テクノバ	再エネ電力 (太陽光)・ 副生水素・輸 入	エネルギー多消費産業の脱炭素化のためのロールモデル確立に向けた調査	2021- 2022
5	グリーン水素・人工合成メタンの製造と次世代燃料の海運業界等での利活用に関する調査	北拓・商船三 井・西日本プラ ント・シーメンスエ ナジー	再エネ電力 (太陽光・ 風力)	北九州市響灘地区（港湾）を中心にカーボンニュートラルの社会実装モデルの実現に向けた調査	2021- 2022
6	洋上に於ける水素サプライチェーン構築に関する調査	商船三井テクノ トレード・太陽日 酸・神鋼環境ソ リユーション・日 本シップヤード	再エネ電力 (洋上風力)	海水を活用した、洋上での水素製造と水素燃料船への水素供給といった洋上に於ける水素SCの構築について検討	2022- 2023

中国・四国および九州・沖縄における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
7	北九州市における地域の再エネを有効活用したCO2フリー水素製造・供給実証事業	北九州パワー	再エネ電力 (太陽・風力)・バイオマス	余剰電力を安価に調達して水素を「つくり」、県内各地に「はこび」、「つかう」一連のサプライチェーンを運用し、低コストなCO2フリー水素の製造・供給モデルを構築する実証	2020-2022
8	福岡市都市再開発地域における地産地消型水素製造・利活用ポテンシャルに関する調査	九州電力	バイオマス・再エネ電力 (太陽光・風力)	エネルギー資源が少ない都市部での水素製造・利活用ポテンシャルを評価し、地産地消に向けたプランを策定	2020-2021
9	九州における余剰再エネ等ゼロエミ電源を用いた水素社会地域モデルの構築に向けた技術開発	九州電力・東芝エネルギーシステムズ	再エネ電力 (太陽光・風力・地熱・水力)	九州大学の水素ステーションを活用し、ゼロエミ電源、マッチング技術を活用した水素製造・利活用等、分散型地域の水素普及に向けた地産地消の社会実装実証	2021-2025
10	愛媛県今治市における地域産業と観光業による水素サプライチェーン構築及び付加価値創出に関する調査	日本環境技研	廃棄物発電・再エネ電力 (太陽光等)	今治市クリーンセンターの未利用エネルギー（廃熱・余剰電力）を活用した水素供給拠点、既存インフラを活用した水素供給コストの低減可能性、地域産業・観光業・公共部門による水素需要創出可能性を調査	2025-2025
11	副生・再エネ水素による低コスト集中型(配管活用)/分散型サプライチェーン実証	山口県産業技術センター	再エネ電力 (太陽光等)・副生水素	苛性ソーダ工場の副生水素を水素配管により商業施設へ輸送し冷温水機で利用することや、製造した水素をガスボンベ配送網で輸送しボイラー等で利用することなどによる、コスト競争力を図る水素供給サプライチェーン構築に向けた実証	2025-2029
12	グリーン水素の燃料利用高度化に関する調査	三菱重工・九州電力・九電みらいエナジー	再エネ電力 (太陽光・風力)	再エネ導入率の高い九州エリアにおいて、将来の再エネ電源導入率・利用率の向上を目的に、再エネ余剰を用いた水素製造とその利活用のポテンシャル調査	2021-2022

中国・四国および九州・沖縄における支援プロジェクトの詳細

【凡例】 新規PJ 終了済みPJ 継続中PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	時期
13	熊本県小国町における未利用地熱を活用した水素製造および利活用に関する調査	関西電力・関西プラント・東芝エネルギーシステムズ・岩谷産業	再エネ電力（地熱）	未利用地熱エネルギーを水素製造に利用することで、未利用エネルギーの活用拡大と安価なグリーン水素製造を目指した検討	2022-2022
14	沖縄エリアの吉の浦マルチガスタービン発電所を核とした地域水素利活用トータルシステムの構築に関する調査	沖縄電力・エアウォーター・日本総合研究所	再エネ電力（太陽光・風力）・メタン・CCUS	発電所での水素混焼技術の検討から、LNGの改質および再エネを活用した水素製造やLNG改質時に回収するCO ₂ ・カーボンナノチューブを活用した産業振興の検討、県外からの大規模水素輸入拠点化、水素利活用ポテンシャルの調査	2021-2022
15	宮古島エリアにおけるグリーン水素・水循環利用社会（離島型水素製造・利活用モデル）構築に向けた実現可能性調査	電力中央研究所・ネクステムズ・沖縄電力	再エネ電力（太陽光・風力）	グリーン水素の製造ポテンシャル、産業誘致や観光開発などの需要ポテンシャルを調査し、水素も含めたエネルギーの完全地産地消モデルを構築するための調査	2022-2023
16	宿泊施設と製塩工場を核とした離島における地産地消型水素利活用モデルの検討	三菱HCキャピタル・電力中央研究所	再エネ電力（太陽光）	離島型地産地消水素モデルの構築を通じて、需要と供給のマッチングの課題解決を目指したパイロット事業の立ち上げに向けた詳細な事業成立性を調査する事業	2024-2025

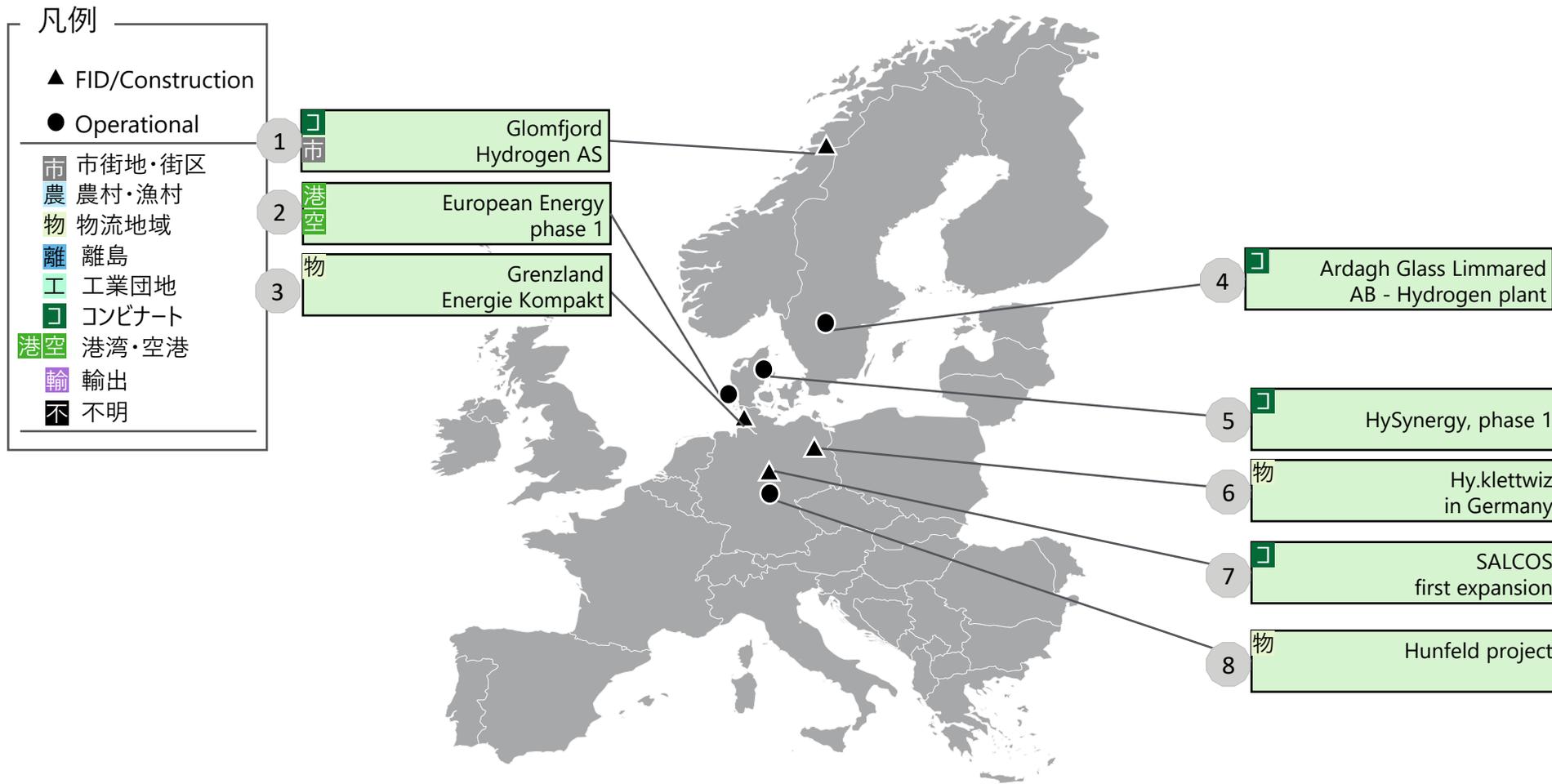
【プロジェクトマップ】

2025年度の欧州における調査では、過年度のIEAデータベースとの差分比較の結果、8件のプロジェクトの追加を確認した

欧州におけるプロジェクト分布

【凡例】

■ 新規PJ



【凡例】

 新規PJ

欧州における新規プロジェクト詳細(1/2)

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	用途	概要	ステータス	運用開始年
1	Glomfjord Hydrogen AS	Glomfjord Hydrogen	再生電力 (水力)	海運 (アンモニア)	グロムフィヨルドに水力由来の再生電力を使用する20MW規模の水素プラントを建設し、海運分野の顧客向けに、グリーンアンモニアを60-100トン/日生産するプロジェクト	FID/ Construction	2027
2	詳細後述 European Energy, phase 1 (2025年phase 2開始予定)	European Energy	再生電力 (風力)	ガス会社に販売 (詳細不明)	デンマークのMådeに風力発電由来の電力を使用する3MW規模の水素プラントを建設、生産された水素はガス会社・エスビャル港に供給され、生産過程の余剰熱は地元の電力会社によって再利用されるプロジェクト	Operational	2024
3	Grenzland Energie Kompakt	グレンツラント市民協同組合 (Grenzland Bürgerenergie eG)	再生電力 (太陽光)	モビリティ： バス/トラック 農業・ (廃熱) 処理場 (酸素)	ドイツのEllhöftで、太陽光発電の余剰電力を使用し、モビリティ分野での使用を視野に水素を平均560kg/日生産する。水電解装置からの廃熱は、周辺の農家に提供、酸素は廃水処理場に供給するプロジェクト	FID/ Construction	2025

【凡例】

 新規PJ

欧州における新規プロジェクト詳細(2/2)

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	用途	概要	ステータス	運用開始年
4	Ardagh Glass Limmared AB - Hydrogen plant	AGP-Europe、プラグパワー	再生電力 (水力・太陽光)	ガラス製造 (水素燃焼炉)	スウェーデンのリマレドにある施設で5MWの水素電解槽を用いてガラス融解用の熱用途でグリーン水素を2,100kg/日生産するプロジェクト	Operational	2024
5	詳細後述 HySynergy, phase 1 (2027年Phase 2開始予定、2030年Phase 3開始予定)	Everfuels	再生電力 (風力・太陽光)	原油精製・モビリティ・地域暖房 (余剰熱)	デンマークのフレゼリシアにある施設で、20MWの水電解装置を用いて、隣接する製油所や自社燃料ステーション向けの水素を製造するプロジェクト、余剰熱は地区暖房事業者に販売される	Operational	2025
6	Hy.klett wiz in Germany	GP JOULE Hydrogen GmbH	再生電力 (風力)	モビリティ： バス/トラック	生産から物流、地域の水素ステーションを介した水素の流通までのモビリティパスにおけるグリーン水素バリューチェーン構築事業	FID/ Construction	2035
7	SALCOS - first expansion	Salzgitter steel company	再生電力 (風力)	水素還元 製鉄	Salzgitterの工場内に100MWの水電解装置を設置し、風力由来の電力から生成された水素を水素還元製鉄に使用し、CO2の削減を目指すプロジェクト	FID/ Construction	2026
8	Hunfeld project	ABOエナジー	再生電力 (風力・太陽光)	モビリティ： バス/トラック	ヘッセン州フルダ近郊のヒュンフェルト・ミヘルスロムバッハで、風力発電由来の水素を生成し、充填ステーション、トレーラー充填ステーションに供給するプロジェクト	Operational	2025

【European Energy Phase 1・HySynergy, Phase 1】 デンマークのプロジェクトでは、水素製造時に製造される余剰熱を用いて、採算性を向上させているプロジェクトが存在する

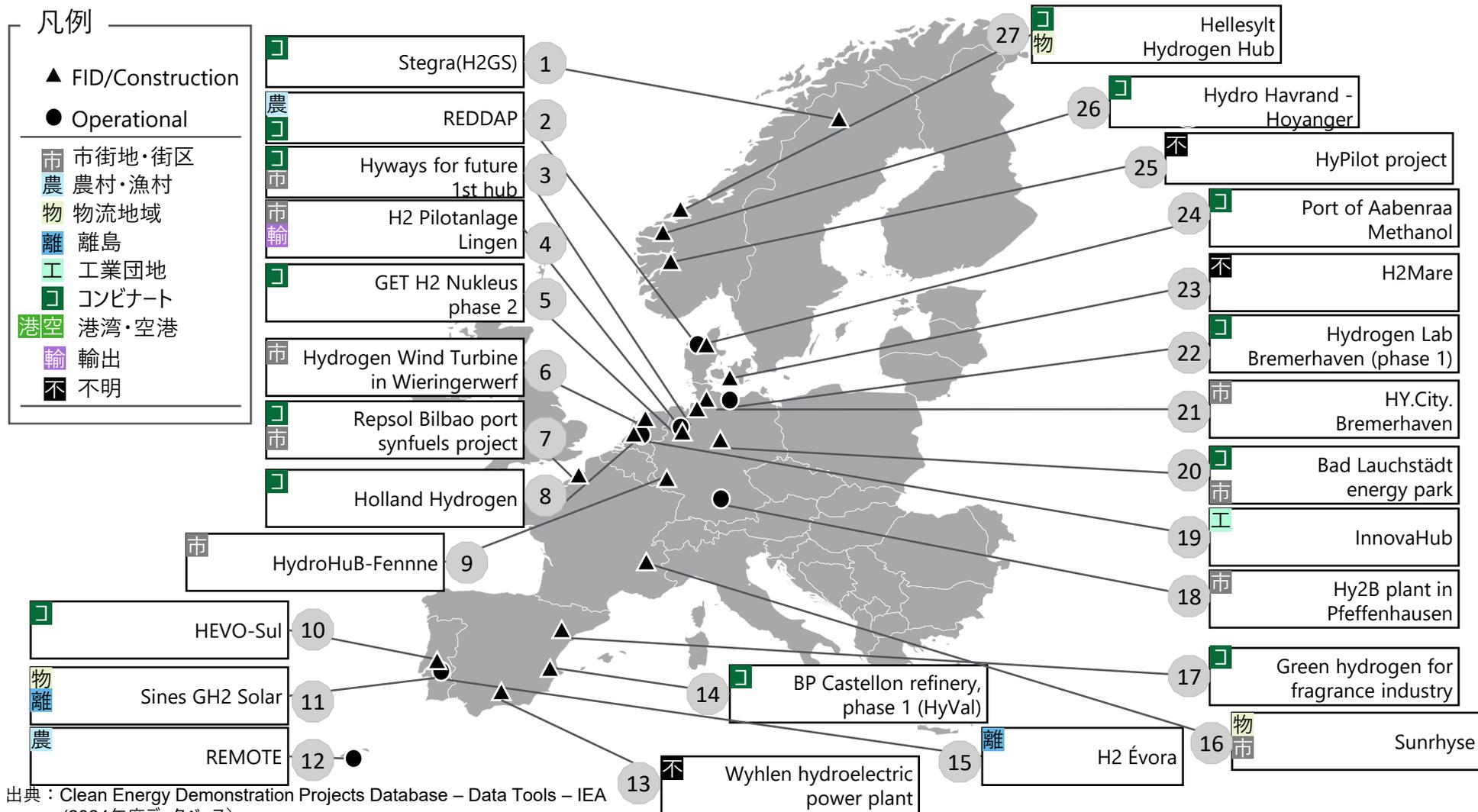
プロジェクト詳細

PJ名称	European Energy, phase 1	PJ名称	HySynergy, phase 1
代表事業者	European Energy (2004年設立、再エネ事業者) * 三菱HCキャピタル出資	代表事業者	Everfuels (2017年設立、水素製造事業者) * 伊藤忠・大阪ガス出資
地域	デンマーク モーデ エスビャウ	地域	デンマーク フレゼリシア
期間	2024年運用開始	期間	2025年運用開始
予算	詳細不明	予算	約82億円【約12億円をデンマークエネルギー庁が支援、約7億円を欧州連合(Connecting Europe Facility)が支援】
概要	<p>〈製造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>European Energyの所有する近郊の風力発電 (16MW) 由来の発電量を管理し、余剰電力や系統電力を用いて水素を製造 (3MW)</u> ※消費エネルギーの80%風力由来、20%系統活用 <p>〈輸送〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 詳細不明 <p>〈利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>ガス会社エアリキードによる長期オフテイク契約 (肥料および船舶燃料用途が想定)</u> ■ <u>エスビャウ港湾局との長期オフテイク契約 (燃料電池利用)</u> ■ <u>余剰熱はDINフォルシニング (地区暖房事業者) に販売、地域の地区暖房ネットワークに供給</u> 	<p>〈製造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>再エネ電源を使用し、20MWの水電解装置 (ALK型) からクリーン水素を製造</u> <p>〈輸送〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>パイプラインにて隣接する製油所に水素を輸送</u> ■ <u>トレーラーによる国外出荷 (ドイツ)</u> <p>〈利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>隣接するCross Bridge Energy (石油精製事業者) の製油所とオフテイク契約 (石油精製) ※船舶、飛行機、トラック向け</u> ■ <u>自社ステーションへのグリーン水素供給</u> ■ <u>余剰熱は、TVIS (地区暖房事業者) に販売</u> 	
今後の計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2025年に運用開始予定の【Phase2】では9MWの水電解装置が追加される予定 ■ 最終的には1,500トン/年の水素製造を目指す 	今後の計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2027年運用開始予定の【Phase2】では300MWの水電解装置を追加予定 ■ 2030年の【Phase3】では700MWの水電解装置を追加予定

出典：European Energy「プレスリリース：European Energy inaugurates its first green hydrogen facility」
 Everfuels「Everfuel's HySynergy Plant Becomes the World's First Facility to Stabilize the Power Grid While Producing Green Hydrogen」
 「欧州最大規模グリーン水素製造PJ／デンマーク・Everfuel社、同国・Crossbridge Energy社へ初の水素生産供給」等（参照日：1月20日）
 © 2025. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

【プロジェクトマップ】 欧州の過年度PJは以下のとおり

欧州におけるプロジェクト分布



欧州における過年度プロジェクト詳細(1/5)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	想定開始年
1	Stegra- phase 1* (2030年phase2開始予定)	H2GS	再生電力	スウェーデンのボーデンにて、大規模グリーンスチール工場を建設するプロジェクトの一環として、水力発電由来の再生電力を使用した700MWの水電解装置から水素を製造するプロジェクト	FID/ Construction	2026
2	REDDAP - Renewable Distributed & Dynamic Ammonia Plant	Skovgaard Energy・Topsoe and Vestas.	再生電力 (風力・太陽光)	西ユトランド半島にて、87,000枚の太陽光パネルと6基の2MW風力タービンを使用し、PtXプロセスで5,000t/年のアンモニアを製造するプロジェクト	Operational	2024
3	Hyways for future, 1st hub	EWE AG	再生電力	都市圏の運輸部門におけるグリーン水素の確立のための市場活性化プログラムとして部門間および国境を越えた水素経済に向けた運輸部門のマーケット拡大を目指した事業	FID/ Construction	2025
4	H2 Pilotanlage Lingen, phase 1, phase 2	RWE	再生電力	ドイツのリンゲンにおけるグリーン水素生産プロジェクトで、エムランドガス火力発電所内で、最大270kg/hのグリーン水素を製造し、水素バリューチェーンの構築を目指す	Operational	2024
5	GET H2 Nukleus, phase 1 (2027年phase2,3開始予定)	RWE	再生電力 (風力)	エムランドガス火力発電所内で、水力発電由来の100MWの水電解装置を導入し、産業顧客向けの大規模な商用グリーン水素生産を目指すプロジェクト	FID/ Construction	2025
6	Hydrogen Wind Turbine in Wieringerwerf	Hygro	再生電力 (風力)	ウィーリンガーヴェルフのEWFF風力パークにおいて、風力タービン由来の電力から、5.4MWの水電解装置によって水素を製造し、燃料ステーションに供給する事業	FID/ Construction	2025

*Stegraについては、プロジェクトの名称が変更されている

欧州における過年度プロジェクト詳細(2/5)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	想定開始年
7	Repsol Bilbao port synfuels project	Repsol・Bask Hydrogen	再エネ電力 (太陽光・風力)	ビルバオ港に風力と太陽光発電を組み合わせた10MWの発電所を建設し、最大1,600トン/年の再生可能水素を生産するプロジェクト	FID/ Construction	2026
8	Holland Hydrogen - phase 1	Shell	再エネ電力 (洋上風力)	ホランセ・クスト沖合風力発電所で60,000kg/日の再生可能水素を生産し、パイプラインを通じてロッテルダムに供給、工業プロセスの化石燃料を置き換えるプロジェクト	FID/ Construction	2026
9	HydroHub-Fenne (2027年phase2開始予定)	Iqony	再エネ電力	ドイツのザールランド州にあるエネルギー拠点に水素を生成する53MW相当の水電解プラントを設置し、8,200t/年の水素を製造、生成した水素の一部を地域公共交通システムに供給するプロジェクト	FID/ Construction	2026
10	HEVO-Sul	FUSION	再エネ電力 (太陽光)	178基のHevo-Solarユニットで構成されるモジュールが、約418トン/年のグリーン水素を生産し、生産された水素は、天然ガス供給網への注入、アンモニア製造、産業用加圧シリンダーなどの用途に使用されるプロジェクト	FID/ Construction	2024
11	Sines GH2 Solar	KemeEnergy Winpower	再エネ電力 (太陽光)	ポルトガル・シネスでの4MW水電解装置を用いたグリーン水素製造プロジェクトで、約240トン/年の水素を生産し、地域のエネルギーコミュニティへの電力供給や近隣の水素充填ステーションを通じた大型車両向け供給を行う	FID/ Construction	2025

欧州における過年度プロジェクト詳細(3/5)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	想定開始年
12	REMOTE - Spain, Canary Islands	トリノ工科大学	再生電力 (太陽光)	スペイン領カナリア諸島にある島において、再生可能エネルギーと蓄電池、水素蓄電技術を組み合わせることで、農業用施設の24時間安定電力供給を実現する実証・DEMO	Operational	2023
13	Wyhlen hydroelectric power plant, expansion	Naturenergi EnBW	再生電力 (水力)	2018年より稼働している1MWのPtGプラントを補完するために水力発電由来の再生可能エネルギーを使用して最大700トン/年の水素を生成できる新プラントを建設するプロジェクト	FID/ Construction	2025
14	BP Castellon refinery, phase 1 (HyVal) (2030年phase2開始予定)	BP	再生電力 (風力・太陽光)	BPのカステリオン製油所で25MW規模のグリーン水素生産施設を建設し、製油所内のグレー水素を置き換える取り組み、2026年には最大2,800t/年の水素生産を目指すプロジェクト	FID/ Construction	2026
15	H2 Évora - GreenGas II	FUSION	再生電力 (太陽光)	15基のHEVO-Solar unitで約15トン/年のグリーン水素を製造し、製造した水素は燃料電池を用いて電力に変換され、需要のピーク時に系統へ売電される	Operational	2023
16	Sunrhyse	Hy2Gen	再生電力	南フランスにおける4MW規模のモビリティ用途向けの水素製造プロジェクトであり、550t/年の水素を生産できる、生産された水素はトレーラーで輸送される	FS	2027

欧州における過年度プロジェクト詳細(4/5)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	想定開始年
17	Green hydrogen for fragrance industry	IFF	再生電力 (風力・太陽光)	スペイン・ベニカルロの香料原料工場において、太陽光由来の電力で、最大100トン/年のグリーン水素を現地生産し、香料原料工場での水素化反応に使用するプロジェクト	Operational	2025
18	Hy2B plant in Pfeffenhausen	Hy2B Wasserstoff GmbH	再生電力 (太陽光)	プフェンハウゼンにある5MW規模の水電解装置によって約440トン/年のRFNBO品質のグリーン水素を提供するプロジェクト	Operational	2024
19	InnovaHub	Hylife Innovations	再生電力 (太陽光)	太陽光などの再生可能エネルギーを需要に合わせて最適運用し、蓄電池や生成した水素による電気供給で住宅17戸に暖房・冷房を供給し、脱炭素と系統混雑の緩和を図るプロジェクト	Operational	2024
20	Bad Lauchstädt energy park	Elektrolyse Mitteldeutschland GmbH (EMG)	再生電力 (風力)	近隣の風力発電所の電力から、30MW規模の水電解装置で水素を生成し、ガスパイプラインを通じてドイツの化学産業や都市交通向けに水素を供給するプロジェクト	FID/ Construction	2025
21	HY.City.Bremerhaven	GP JOULE Hydrogen GmbH	再生電力 (風力)	グリーン水素の生産から輸送、そして地元の水素ステーションを通じた水素の供給までの、モビリティにおける一貫した水素サプライチェーンの構築事業	Operational	2025

欧州における過年度プロジェクト詳細(5/5)

【凡例】

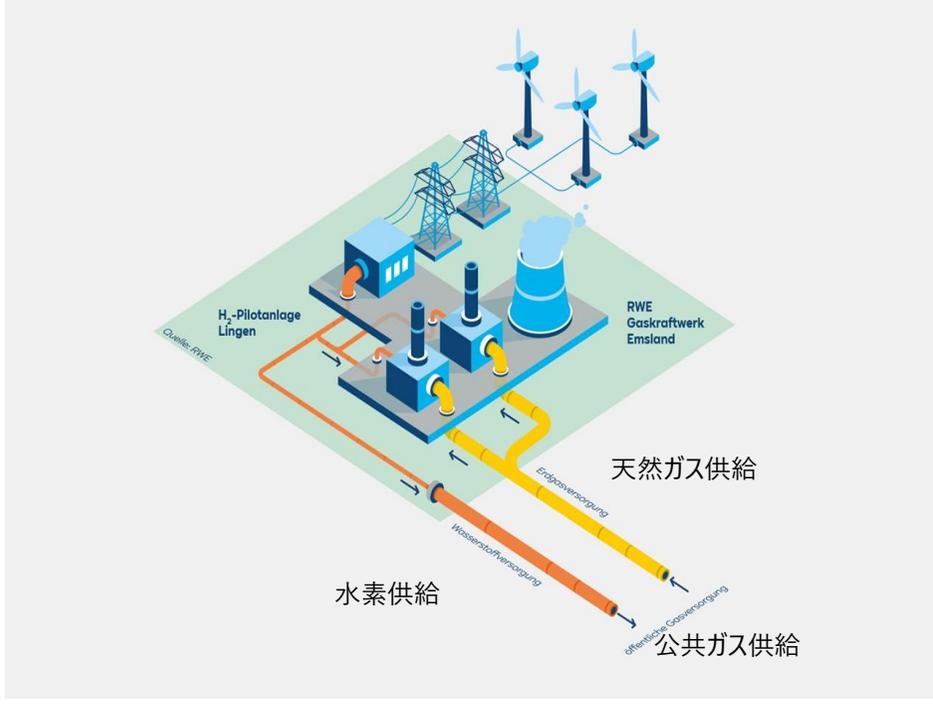


R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	想定開始年
22	Hydrogen Lab Bremerhaven (phase 1)	Hydrogen Lab Bremerhaven (HLB)	再生電力 (風力)	風力タービンなどの変動電源と水電解装置の組み合わせを最適化するための研究・実証	Operational	2023
23	H2Mare	Siemens Energy	再生電力 (風力)	洋上風力タービンを使用し、風車一体型の水電解装置で水素製造を行うプロジェクト	FID/ Construction	2026
24	Port of Aabenraa Methanol	European energy 三井物産	再生電力 (太陽光)	隣接するカッソー太陽光発電所(304MW)由来の電源を用いて、船舶燃料やプラスチック産業向けのアンモニアを最大42,000トン/年製造するプロジェクト	Operational	2025-
25	HyPilot project	Hystar	再生電力 (風力)	ノルウェーのKårstøガス処理プラントに設置した1.5MW規模のコンテナ型水電解装置の実証試験	DEMO	2024
26	Hydro Havrand - Hoyanger	Hydro	再生電力	リサイクル施設でグリーン水素技術を試験し、アルミニウムスクラップの再溶解プロセスにおいて、液化天然ガスを水素に代替することを目指すプロジェクト	FID/ Construction	2025
27	Norwegian Hydrogen, Hellesylt Hydrogen Hub 1st project	Norwegian Hydrogen	再生電力 (水力)	ヘルシストにある施設で、水力発電所由来の電力を使用して最大1.3トン/日の水素生産を行うプロジェクトで、地元の産業や大型車両・船舶向けに提供する	Operational	2024

【H2 Pilotanlage Lingen, Phase 1, 2】 RWEの大規模プロジェクト「GET H2 Nukleus」のパイロットプロジェクトとして、水素製造プロジェクトが運用されている

プロジェクト詳細（公共供給先型PJ）

PJ名称	H2 Pilotanlage Lingen, phase 1, phase 2	地域	ドイツ リンゲン
代表事業者	RWE（1898年設立、エネルギー事業者）	期間	【Phase1,2】2024年運用開始
〈事業イメージ〉	<p>約55億【約14億円分を ニーダーザクセン州環境・エネルギー・気候保護省が支援】</p>		
 <p>The diagram illustrates the H2 Pilotanlage Lingen project. It shows a central industrial facility (H₂-Pilotanlage Lingen) connected to a gas power plant (RWE Gaskraftwerk Emsland). Wind turbines are shown providing renewable energy to the facility. The facility produces hydrogen (水素供給) and natural gas (天然ガス供給). The hydrogen is then distributed to public gas supply (公共ガス供給) via a pipeline (Wasserstoffversorgungsleitung). The natural gas is also distributed to public gas supply (公共ガス供給) via a pipeline (Erdgasversorgungsleitung). The source is noted as 'Quelle: RWE'.</p>	<p>予算</p> <p>概要</p>	<p>エムスランドに計14MW【Phase1：10MW AEK、Phase2：2MW】 PEM ×2基の水電解装置を建設し、風力発電由来の再生可能エネルギーを利用して270kg/hの水素製造を行うプロジェクト</p> <p>〈製造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>水電解装置（ALK/PEM型）から最大270kg/hのクリーン水素を製造</u> <p>〈輸送〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>トラックを使用し、陸路で顧客に輸送</u> ■ <u>水素ステーションにはパイプラインを使用し輸送（建設中）</u> <p>〈利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ RWEの保有する火力発電所の天然ガスタービン燃料として使用 ■ <u>公共水素ステーション及び民間水素ステーションで使用（建設中）</u> 	
	<p>今後の計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本プロジェクトで得られた知見を基にして、建設中の同社大規模プラント（GET H2 Nukleus）の運用を検討している 	

出典：IEA Clean Energy Demonstration Projects Database – Data Tools – IEA
RWE「H2 pilot plant in Lingen」（参照：1月20日）

【プロジェクトマップ】

2025年度の米国における調査では、過年度IEAとの差分比較の結果、2件のプロジェクトの追加を確認した

米国における新規プロジェクト分布

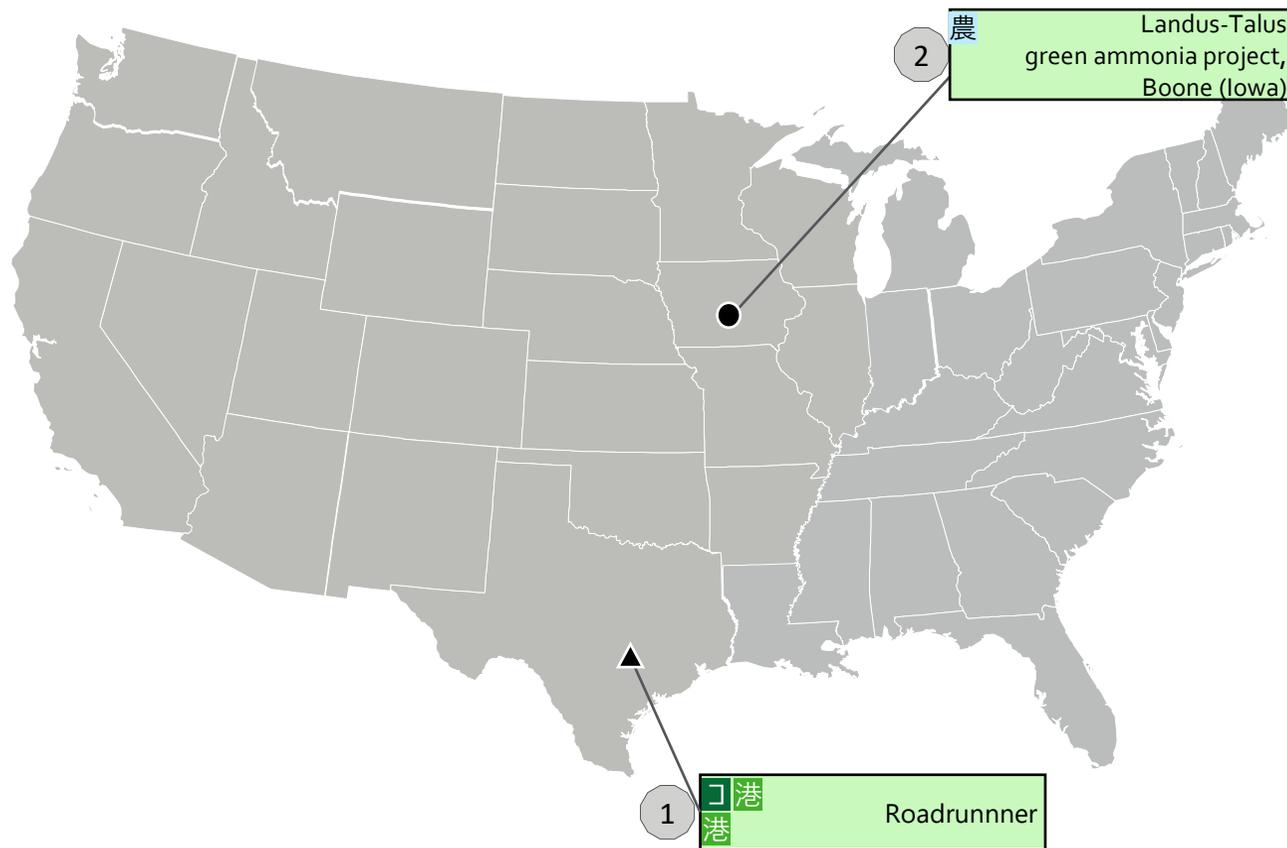
【凡例】

■ 新規PJ

凡例

- ▲ FID/Construction
- Operational

- 市 市街地・街区
- 農 農村・漁村
- 物 物流地域
- 離 離島
- 工 工業団地
- コ コンビナート
- 港空 港湾・空港
- 輸 輸出
- 不 不明



米国における新規プロジェクト詳細

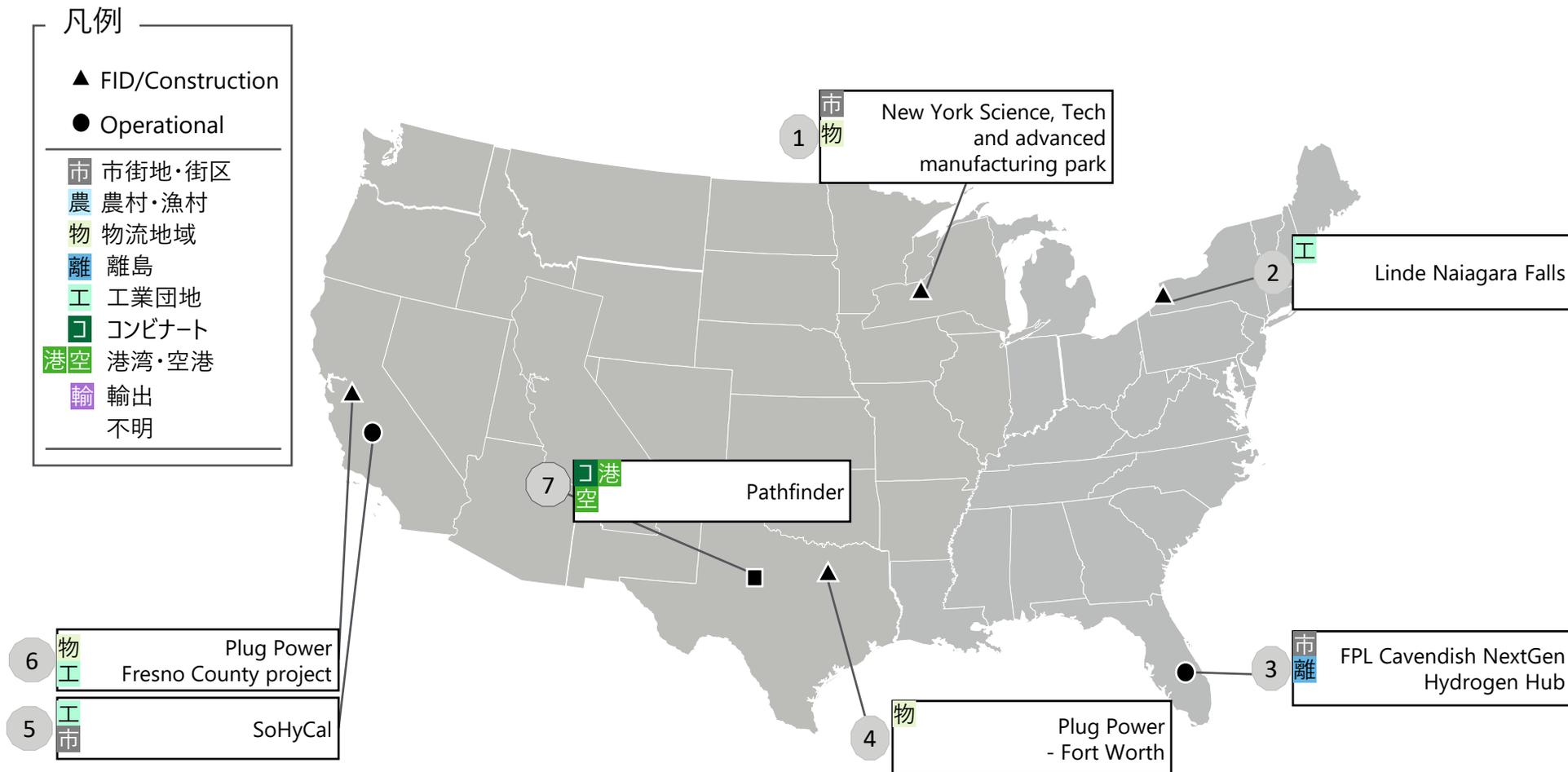
【凡例】

新規PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	運用開始年
1	Roadrunner	INFINIUM	再生電力 (太陽光・風力)	E-fuel製造大手のInfiunium社が、風力/太陽光発電由来のグリーン水素と二酸化炭素を原料として23,000トン/年のe-SAFを生産、大手航空会社に提供するプロジェクト	FID/ Construction	2027
2	Landus-Talus green ammonia project, Boone (Iowa)	Landus・TalusAg	再生電力	アイオワ州ブーンで、20トン/日のグリーンアンモニアの生産をするプロジェクトで、生産されたアンモニアは地元農家が肥料として利用	Operational	2025

【プロジェクトマップ】 米国の過年度PJは以下のとおり

米国における過年度プロジェクト分布



出典：Clean Energy Demonstration Projects Database – Data Tools – IEA
(2024年度データベース)

米国における過年度プロジェクト詳細(1/2)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	運用開始年
1	New York Science, Technology and Advanced Manufacturing Park	Plug Power	再エネ電力 (水力)	州内の水力発電由来の電源を利用し、120MWの最先端PEM電解槽で45トン/日のグリーン液体水素を生産し、貨物輸送および物流セクターに供給するプロジェクト	FID/ Construction	2025-
2	Linde Niagara Falls	Linde	再エネ電力 (水力)	ナイアガラの滝の発電所に35MW規模の電解装置を設置するプロジェクト	FS	2027-
3	FPL Cavendish NextGen Hydrogen Hub	Florida Power and Light	再エネ電力 (太陽光)	太陽光由来の電源を25MWの水電解装置で使用し10.8トン/日の水素を生成、天然ガスに混合して使用することで、発電プロセスの脱炭素化を目指した水素ハブプロジェクト	Operational	2023-
4	Plug Power - Fort Worth	Plug Power	不明	ジョージア州、テネシー州、ルイジアナ州の水素生産施設から水素を調達し、燃料電池を搭載した50台以上の水素フォークリフトと4基の給油ステーションに供給するプロジェクト	FS	2028-

米国における過年度プロジェクト詳細(2/2)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

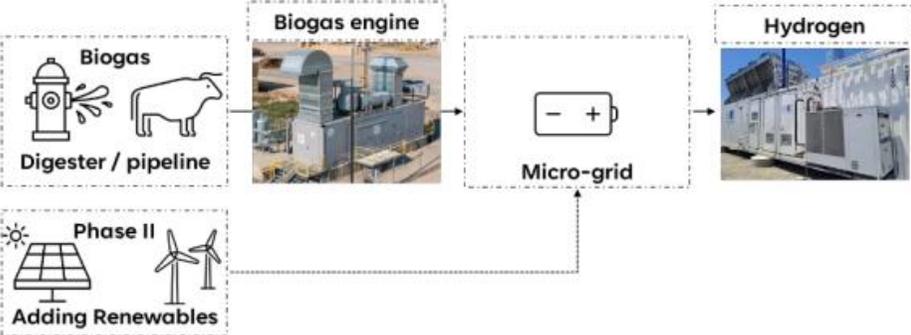
	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	運用開始年
5	SoHyCal 詳細後述	H2B2 Electrolysis Technologies	再エネ電力 (太陽光・バイオマス)	PEM技術を用いた再生可能水素製造プラントを建設、運営し、バイオガス及び太陽光発電所由来の電力を使用して、最大で3,000 kg/日のモビリティ利用向け水素を生成するプロジェクト	Operational	2023
6	Plug Power Fresno County project	Plug Power	再エネ電力 (太陽光)	太陽光由来の電力を使用して、PEM水電解装置(120MW)より30トン/日の水素を製造するプロジェクト	FS	2027
7	Pathfinder	INFINIUM	再エネ電力 (太陽光・風力)	テキサス州コーパスクリスティに位置する工場において、商用スケールでのe-SAF製造を行うプロジェクト	Operational	2024



【SoHyCal, Phase 1, Phase 2】

SoHyCalプロジェクトでは、太陽光パネルのほかにバイオガスも使用して約3万台の市営バスに供給可能な水素量の生産を見込む

プロジェクト詳細（公共供給先型PJ）

PJ名称	SoHyCal, phase 1, phase 2	地域	米国 カルフォルニア
代表事業者	H2B2 Electrolysis Technologies (2016年設立、エネルギー事業者) * カルフォルニア州エネルギー委員会が出資	期間	【Phase1】2023年運用開始 【Phase2】2024年運用開始
〈事業イメージ〉			
	<p>予算</p> <p>詳細不明 【約5億ドルをカリフォルニアエネルギー委員会が補助】</p>		
概要	<p>7.5MWのPEM型水電解装置を使用し、【Phase1】はバイオガス、【Phase2】では太陽光由来の再生可能エネルギーを利用して最大3,000kg/dの水素製造を行うことを目指すプロジェクト</p> <p>〈製造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 動物の糞尿を使用したバイオガスエンジンと太陽光発電を使用した電源を用いて水素を製造 <p>〈輸送〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 詳細不明 <p>〈利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 水素ステーションで使用 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 年間最大21万台の燃料電池自動車に提供可能 ➢ 地元の交通当局が運航する3万台の公共輸送バスに提供可能 		
	<p>今後の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 2027年までに、1,290トン/年の生産を目指す 		

出典：IEA Clean Energy Demonstration Projects Database – Data Tools – IEA H2B2「Solar PV Hydrogen Production Plant in Central California」 H2B2「SoHyCal Green Hydrogen Station」（参照日：1月20日）

【プロジェクトマップ】

2025年度の豪州における調査では、過年度のIEAデータベースと今年度データベースとの差分比較の結果、1件のプロジェクトの追加を確認した

豪州における新規プロジェクト分布

【凡例】

■ 新規PJ



豪州における新規PJ詳細

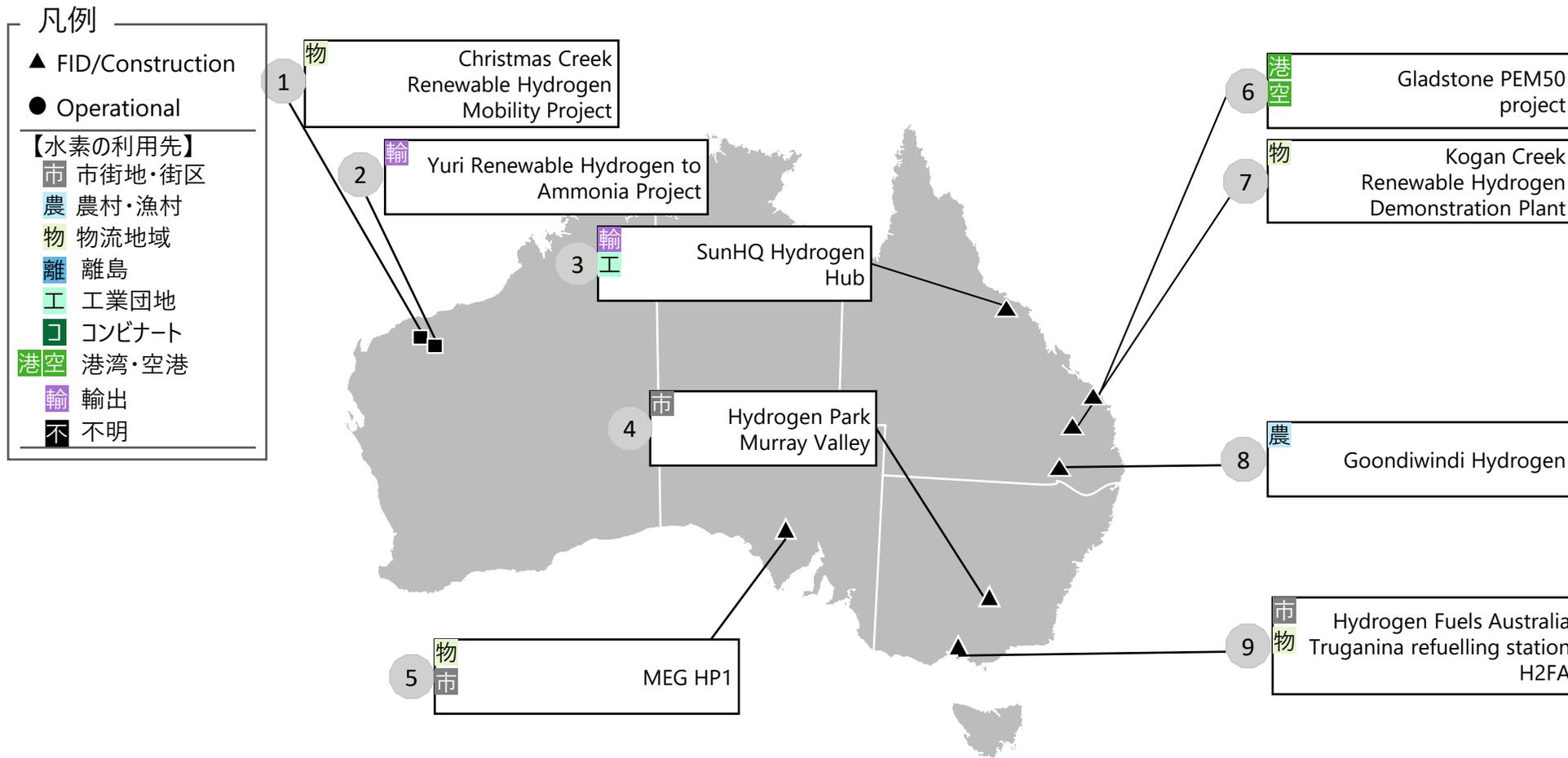
【凡例】

新規PJ

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	運用開始年
1	Yarwun alumina refinery	Sumitomo Corporation・Rio Tinto	再生電力	リオ・ティント製油所内に2.5MWのPEM水素電解槽を設置し、製造した水素を焼成炉の水素バーナーで使用する技術開発事業	FID/ Construction	2025-

【プロジェクトマップ】 豪州の過年度PJは以下のとおり

豪州における過年度プロジェクト分布



豪州における過年度プロジェクト詳細(1/2)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	運用開始年
1	Christmas Creek Renewable Hydrogen Mobility Project	Fortescue Future Industries	再生電力 (太陽光・CCUS)	60MWの電解装置を通じてオンサイトで水素を生産し、鉄鉱石鉱山で保有している既存のディーゼル車両を水素燃料電池車両10台に置き換えるプロジェクト	Operational	2024
2	Yuri Renewable Hydrogen to Ammonia Project	Yuri SPV・三井物産	再生電力 (太陽光)	液体アンモニア工場で水蒸気メタン改質を通じて生成される水素の一部をPV由来水素に置き換える事業プロジェクトで、10MWの水電解装置を建設・稼働	FID/ Construction	2026
3	SunHQ Hydrogen Hub	Ark Energy Corporation Pty Ltd	再生電力 (太陽光)	韓国の亜鉛製造会社が脱炭素化に向けて、亜鉛製油所で太陽光発電由来のグリーン水素を1MW規模の水電解装置を使用し、生産。施設内での大型ディーゼル燃料車両を燃料電池車両に置き換える事業	FID/ Construction	2025
4	Hydrogen Park Murray Valley	Australian Gas Infrastructure Group	再生電力	パークマレーバレーで製造された水素が最大10%の量で天然ガスと混合され、既存のガス供給ネットワークを介して供給、4万軒以上の住宅及び企業に供給する事業	FID/ Construction	2025
5	MEG HP1	Infinite Green Energy Ltd・Samsung C&T	再生電力 (太陽光)・電力網	10MWの水電解装置を備えており、太陽光発電由来の電力と、電力網からの供給の両方を使用して満時稼働時には4トン/日の水素を生成するプロジェクト	FS	記載なし

豪州における過年度プロジェクト詳細(2/2)

【凡例】



R6からR7にかけてIEAデータベースから削除されたPJ
R6からR7にかけてIEAデータベース上で変更された箇所

	プロジェクト名	主な事業者	製造方法	概要	ステータス	運用開始年
6	Gladstone PEM50 project -Phase 1 (2028年Phase2開始予定)	Fortescue Future Industries	再エネ電力	2025年に稼働予定の30MWと2028年に稼働予定の20MWの水電解装置を含む、2段階で最大50MWの再生可能エネルギーベースの水素製造施設を設置し、8,000トン/年の水素生産を目指す事業	FID/ Construction	2025
7	Kogan Creek Renewable Hydrogen Demonstration Plant	CS Energy ・ Senex Energy	再エネ電力 (太陽光)	コーガン・クリーク発電所の隣に2MW太陽光発電所、2MW/4MW蓄電池、1MWのPEM型電解装置、小型燃料電池で構成された実証設備を運用	FID/ Construction	2026
8	Goondiwindi Hydrogen	Goondiwindi Regional Council	再エネ電力 (太陽光)	廃水処理場に水素製造施設を設置し、2.5MWの太陽光発電所由来の電力から1,350トン/年の水素を生産する。副生物として生成される酸素は廃水処理の効率向上に使用され、水素は主に地域の農業・産業・モビリティ用途で活用される事業	FID/ Construction	2025
9	Hydrogen Fuels Australia Truganina refuelling station - H2FA	Hydrogen Fuels Australia	再エネ電力 (太陽光)	ビクトリア州での統合型商業用水素給油ステーションの設置を行う。施設内に、640kWの太陽光パネルと432kWの電解層を備えており敷地内で水素を生産し、2-3車両/日に水素を供給するプロジェクト	FID/ Construction	2024